

令和元年度 事業報告書



社会福祉法人マザアス

目次	頁
I. 理事長報告	3
II. 現況報告	4
III. 経営状況	17
IV. 社会福祉法人マザアス 法人本部	22
V. 高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米	24
VI. 高齢者福祉総合施設 マザアス日 野	44
VII. 地域密着型複合施設 マザアス新 宿	56

I. 理事長報告

平成 30 年度介護報酬改定をみると「団塊の世代が 75 才以上となる 2025 年に向けて、国民 1 人 1 人が状態に応じて適切なサービスを受けられるよう、平成 30 年度介護報酬改定により、質が高く効率的な介護の提供体制を推進」とうたって、改定率プラス 0.54%の改定を実施した。この時業界はプラス改定を勝ち取ったと評価したのである。

この制度で 2 年経過したが、ますます社会福祉法人の体力を奪う方向に進んでいるのが現実のようだ。

今年度三拠点の事業所で、470 人以上の職員が頑張った結果、当期活動増減差額 404,807 円で、辛うじてプラスとなった。注目すべきサービス活動増減差額マイナス 5,032,567 円であったことである。サービス内容を細部に見ると定員と実稼働に差のある問題を含んでいる。

稼働率の問題は複雑で、人材不足、有資格者が採用し難い故に質の低下等の事が考えられるが、職員不足で定員を削減している法人も散見されるところから、余り贅沢を言えない客観情勢でもあるし、環境の変化が利用を少なくしている事情もある。

マザース東久留米の大規模修繕は概ね順調に経過しており、次年度には終了する予定であるが、これは東京都の補助金に自己資金、借入金によって実現しているものである。この大規模修繕はマザース日野も控えており、準備段階に入っていることも報告しておかなければならない。

最後に年度末に発生した新型コロナウイルスのことに触れないわけにはいかない。予防策、対応策には職員だけでなく利用者及びその家族に協力いただいて、危ういところもあったが、何とか乗り越えてきた感がある。どんな厳しい状況になろうと出勤しなければならない職員とその家族の努力と犠牲には感謝と敬意を表さなければならない。

この問題には EPA で日野事業所に配属を決定していたインドネシアからの二名の職員が、来日できていないこともある。

社会福祉の現場では弱者に「寄り添う」「伴走」という言葉が大切にされ、人間関係で「支え合い」の必要が言われてきた。ところが、コロナ騒動で「社会的距離」social distance が生命をまもるために必要と言われてきた。しかし、社会的距離をとることはどんなに踏ん張っても無理な現場が早く元の状態に戻ることを願っている。

Ⅱ. 現況報告（令和2年3月31日現在）

1. 基本情報

所轄庁	東京都
法人名	社会福祉法人 マザアス
主たる事務所の所在地	〒203-0004 東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号
電話番号	042-477-7261
FAX 番号	042-477-7500
ホームページアドレス	http://www.moth.or.jp
メールアドレス	office@moth.or.jp
設立認可年月日	平成6年10月18日
設立登記年月日	平成6年10月19日
代表者氏名	高原 敏夫
就任年月日	平成26年10月20日

2. 社会福祉事業

（1）（老人福祉）第1種社会福祉事業（3施設）

施設名・事業所名（事業所番号）	定員
所在地	事業開始年月日
特別養護老人ホーム マザアス東久留米（1374800074） 東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	80 平成7年5月8日
特別養護老人ホーム マザアス日野（1373500139） 東京都日野市万願寺一丁目1番1号	102 平成11年5月1日
地域密着型特別養護老人ホーム マザアス新宿 （1390400107） 東京都新宿区新宿七丁目3番31号	29 平成22年5月1日

（2）（老人福祉）第2種社会福祉事業（16事業所）

施設名・事業所名（事業所番号）	定員
所在地	事業開始年月日
デイサービスセンター マザアス氷川台（1374800181）	（介護・予防）39 （認知症）12

東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成7年7月1日
デイサービスセンター マザアス多摩川苑 (1373500287)	(介護・予防) 45 (認知症) 12
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年5月1日
デイサービスセンター マザアス大門 (1374800322)	(介護) 10 (予防) ①9 ②9
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	平成11年7月1日
ショートステイ マザアス東久留米 (1374800207)	10
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成7年7月1日
ショートステイ マザアス日野 (1373500139)	18
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年6月1日
ショートステイ マザアス新宿 (1374801106)	3
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
ヘルパーステーション マザアス氷川台 (1374800199)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成8年7月1日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1373500527)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年7月1日
グループホームたきやま(1374800371)	9
東京都東久留米市前沢五丁目25番14号	平成11年12月15日
グループホームひかわだい (1374800553)	9
東京都東久留米市氷川台二丁目6番6号	平成14年3月1日
グループホームたまだいら (1373501327)	9
東京都日野市多摩平二丁目13番14号	平成17年9月1日
グループホームおがわ (1394300014)	18
東京都小平市小川一丁目113番8号	平成18年7月1日
グループホームつつじ (1390400123)	18
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
小規模多機能ホーム みなみだいら (1393500036)	(登録) 29
東京都日野市南平三丁目10番2号	平成20年9月1日
小規模多機能ホームさくら (1390400115)	(登録) 29
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
小規模多機能ホームさかえまち (1393500069)	(登録) 29
東京都日野市栄町二丁目17番1号	平成23年5月1日

(3) (障害福祉) 第2種社会福祉事業 (1事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1313500678)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成23年11月1日
就労継続支援B型事業所マザアス (1314400639)	
東京都清瀬市松山一丁目4番20号203	平成29年7月1日

3. 公益事業 (7事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
居宅介護支援事業所 多摩川苑 (1373500030)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年4月1日
居宅介護支援事業所 マザアス氷川台 (1374800504)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成13年6月1日
東久留米市東部地域包括支援センター・本部 (1304800012)	
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	平成18年4月1日
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号グループホームひかわだい内 (本部)	
日野市地域包括支援センター 多摩川苑 (1303500092)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成21年4月1日
多摩若年性認知症総合支援センター	
東京都日野市大坂上一丁目30番18号	平成28年11月10日
介護人材の育成事業 マザアス新宿	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成30年9月7日
高齢者食事配達サービス事業 日野	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	
高齢者食事配達サービス事業 大門	
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	

4. 組織

(1) 理事（定員6 現員6）、監事（定員2 現員2）

役職名	氏 名	役員選出区分	任 期	理事会出席回数/7
理事長	高原 敏夫	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R3.6	7
理事	衣川 輝夫	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R3.6	7
理事	千先 勉	社会福祉活動に協力する個人・団体	～R3.6	6
理事	松澤 雅子	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R3.6	7
理事	古谷 晋	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R3.6	7
理事	石原 正弘	社会福祉活動に協力する個人・団体	～R3.6	6
監事	吉田 剛	財務管理について識見を有する者	～R3.6	7
監事	我謝 悟	社会福祉事業について識見を有する者	～R3.6	7

(2) 評議員（定員7名 現員7名）

役職名	氏名	役員選出区分	任期	評議員会出席回数/1
評議員	児玉 桂子	学識経験者	H29.4～R3.4	1
評議員	矢谷 令子	学識経験者	H29.4～R3.4	1
評議員	上田 健	地域の福祉関係者	H29.4～R3.4	1
評議員	古賀 晋章	学識経験者	H29.4～R3.4	0
評議員	細谷 洋子	社会福祉活動に協力する個人・団体	H29.4～R3.4	1
評議員	鈴木 純子	学識経験者	H29.4～R3.4	0
評議員	村本 英那	地域の福祉関係者	H29.4～R3.4	1

(3) 施設長

施設名	氏名	就任年月日
高齢者福祉総合施設マザアス東久留米	松澤 雅子	H25.6.1
高齢者福祉総合施設マザアス日野	古谷 晋	H28.7.1
地域密着型複合施設マザアス新宿	高岡 宏	H28.3.1

(4) 職員数（令和2年3月末日）

	常勤/専従	非常勤		合計
		人員数	換算数	換算数
法人本部	1	1	0.6	1.6
東久留米	79	115	66.0	145.0
日 野	114	80	35.5	149.5
新 宿	37	39	18.3	55.3
合 計	231	235	120.4	351.4
	(職員総数 466)			

職員数（平成31年3月末日）

	常勤/専従	非常勤		合計
		人員数	換算数	換算数
法人本部	1	1	0.6	1.6
東久留米	82	120	59.5	141.5
日 野	114	69	31.0	145.0
新 宿	44	28	15.0	59.0
合 計	241	218	106.1	347.1
	(職員総数 459)			

(5) 職員平均年齢/平均勤続年数（令和2年3月末日）

拠点名（開設年度）	平均年齢	平均勤続年数
東久留米（H7）	51.8	7.4
日 野（H11）	48.1	7.2
新 宿（H22）	45.2	4.3
法人全体	48.3	6.2

職員平均年齢/平均勤続年数（令和元年3月末日）

拠点名（開設年度）	平均年齢	平均勤続年数
東久留米（H7）	51.6	7.2
日 野（H11）	44.1	8.4
新 宿（H22）	45.3	4.6
法人全体	47.0	6.7

(6) 資格取得状況（人数）（令和2年3月末日） ※重複含む

	社会福祉士	介護福祉士	介護支援 専門員	看護師	准看護師
東久留米	11	78	22	9	4
日 野	15	86	32	7	4
新 宿	8	27	10	7	0
合 計	34	225	64	23	8

資格取得状況（人数）（令和元年3月末日） ※重複含む

	社会福祉士	介護福祉士	介護支援 専門員	看護師	准看護師
東久留米	11	80	23	9	5
日 野	13	88	26	8	9
新 宿	8	34	9	4	1
合 計	32	202	58	21	15

(7) 理事会

開催年月日	出席 者数 /6	監事 出席 有無	決議事項
R1.06.06	5	有	第1号議案 H30年度業報告書について 第2号議案 資金繰入について 第3号議案 H30年度決算報告書について 第4号議案 社会福祉充実計画について 第5号議案 次期役員候補者について 第6号議案 定款改定について 第7号議案 6月賞与について 第8号議案 定時評議員会の招集について
R1.06.25	6	有	第1号議案 理事長の選任について 第2号議案 常務理事の選任について 第3号議案 日野ベッド入れ替えについて 第4号議案 マイカー通勤規程の改定について
R1.07.31	5	有	第1号議案 マザアス東久留米大規模修繕に関わ る札参加条件の件 第2号議案 マザアス東久留米大規模修繕に関わ る予定価格設定の件 第3号議案 マザアス東久留米大規模修繕に関わ る最低制限価格の設定の件

			第4号議案	理事の海外研修派遣の件
R1.08.30	6	有	第1号議案	マザアス東久留米大規模修繕に関わる入札参加条件の変更について
R1.11.08	6	有	第1号議案	マザアス東久留米大規模修繕に関わる入結果について
			第2号議案	マザアス東久留米大規模修繕に関わる工事請負契約について
			第3号議案	理事会議事録に関わる誤植の修正について
			第4号議案	法人本部事務室の移転について
			第5号議案	「資格取得および資格保持にに対する法人の支援に関する規程」の改定について
R1.11.29	6	有	第1号議案	R1年度第1次補正予算案について
			第2号議案	令和元年度12月賞与案について
			第3号議案	マザアス日野ショートステイ床の転換による特養の増床について
			第4号議案	評議員会の開催について
R1.03.27	6	有	第1号議案	R1年度第二次補正予算について
			第2号議案	R2年度事業計画書について
			第3号議案	R2年度当初予算について
			第4号議案	会計監査人の選任について
			第5号議案	定款変更について
			第6号議案	役員報酬規程の改定について
			第7号議案	正規職員就業規則の改定について
			第8号議案	パートアルバイト就業規則/契約職員就業規則/有期契約訪問介護員就業規則の改定について
			第9号議案	特養マザアス日野 運営規程の改定について
			第10号議案	特養マザアス新宿 運営規程の改定について
			第11号議案	給食業務委託契約の更新について
			第12号議案	清掃業務委託契約の更新について
			第13号議案	介護ワトナス契約の更新について
			第14号議案	介護ワトナス契約の更新について
			第15号議案	第三者委員の委嘱について
			第16号議案	評議員会の招集について

(8) 評議員会

開催年月日	出席者数 ／7	監事出欠 有無	決議事項
R1.06.25	5	有	1.H30 事業報告 2.H30 決算報告 3.社会福祉充実計画について 4.任期満了に伴う新理事・新監事監事の 選任について 5.定款の変更について
R2.03.27	—	—	(コロナ禍により中止)

(9) 監事監査

監査年月日	監査者	監査報告の有無	指摘事項	改善事項
R1.06.04	吉田 剛 我謝 悟	有	無	無

5. 資産管理

不動産 の所有 状況		所在地	面積 (㎡)	評価額 (千円)	担保提供の有 無
基本財産	土地	東京都東久留米市氷川台2丁目416番地1.3.4	5204.03	1,526,900	有
		東京都日野市万願寺一丁目16番地1.2	3301.85	759,000	有
		東京都日野市万願寺一丁目16番地3	1090.00	212,550	有
	建物	東京都東久留米市氷川台2丁目416番地1	3939.09	508,594	有
		東京都日野市万願寺一丁目16番地1	6356.93	756,559	有
		東京都新宿区新宿7丁目3-31	2946.38	365,334	有
	合計			4,128,937	

6. その他

(1) 情報公開

・法人ホームページ、法人広報誌、玄関ロビーに設置等の方法により公開

(2) 外部審査等

日付	項目	備考
令和元年6月19日	東久留米市介護保険課実地指導	マザアス大門
令和元年7月18日	新宿区介護保険課実地指導	マザアス新宿(特養)

令和元年9月3日	第三者評価 (医療・介護情報ネットワーク)	マザアス日野(特養)
令和元年9月11日	東京都介護サービス情報公表調査	マザアス日野(特養、通所、居宅)
令和元年10月31日	第三者評価 (医療・介護情報ネットワーク)	グループホームたまだいら
令和元年11月13日	第三者評価(利用者調査) (ひとまち社)	マザアス東久留米(特養)
令和元年12月	第三者評価(利用者調査) (ひとまち社)	グループホームつつじ(新宿)
令和2年1月31日	東久留米市介護保険課実地指導	デイ氷川台(認知症対応型)
令和2年2月12日	第三者評価(ひと・まち社)	グループホームおがわ

(3) 第三者評価

受審施設・事業所名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
特養 マザアス東久留米	○	○	◎	○	○	◎
特養 マザアス日野	◎	○	◎	○	◎	—
グループホームひかわだい	—	◎	◎	◎	◎	◎
グループホームたきやま	—	◎	—	◎	—	◎
グループホームおがわ	◎	—	—	◎	◎	—
グループホームたまだいら	◎	—	◎	—	◎	—
グループホームつつじ	◎	◎	◎	—	◎	◎
小規模多機能ホームみなみだいら	○	○	○	◎	○	—
小規模多機能ホームさかえまち	○	○	○	◎	○	○
小規模多機能ホームさくら	○	○	○	—	—	◎

◎：組織マネジメント+サービス項目

○：サービス項目

—：未受審

(4) 苦情解決件数〔第三者委員会提出件数〕

() は苦情受付件数

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	7(7)	5(5)	7(7)	10 (10)	3 (3)	15 (15)
日 野	11(11)	16(13)	4(6)	9 (11)	5 (5)	5 (5)
新 宿	2 (2)	2(2)	1(1)	4 (4)	6 (6)	3 (3)

(5) 事故件数〔行政報告件数：感染症含む〕

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	7	14	9	6	9	20
日 野	23	36	33	26	22	15
新 宿	4	5	5	3	3	4

(6) 実習生の受け入れ（年間延べ受け入れ人数）

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	101	126	119	296	370	281
日 野	317	256	184	150	308	683
新 宿	239	283	290	227	19	1

(7) ボランティア活動(年間延べ活動人数) ※30 年度サテライトへのボラ含む(日野)

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	2,279	2,283	2,473	2,489	2,412	2,599
日 野	3,641 (1,820)	3,894 (1,722)	1,597	1,746	1,716	1,942
新 宿	656	775	1176	767	1,014	754

(8) 外部研修（参加延べ人数）

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	68	91	96	57	51	91
日 野	155	184	154	139	134	115
新 宿	17	23	9	41	18	14

(9) 内部研修（実施回数）

拠点名	R1	H30	H29	H28	H27	H26
東久留米	17	13	13	17	20	28
日 野	31	27	24	19	16	9
新 宿	21	37	19	21	54	63

* 実践報告会含む（※個別事業ごとの研修や勉強会を除く）

(10) 海外研修（人数）

拠点名	韓 国	インドネシア	合 計
本部（理事・評議員含む）		1	
東久留米	2	0	2
日 野	1	1	1
新 宿	1	0	1
合 計	4	2	4

(11) 外部発表

拠点名	内 容
東久留米	アクティブ福祉 in 東京'19 (2019.9.30) 「入院治療中に発症し悪化した両踵褥瘡を、他職種協働で完治させた5ヶ月間の実践報告」
日野 （特養）	アクティブ福祉 in 東京' 19 (2019.9.30) 「特養入居者が現役で地域の中で働く場所を確保できる取り組みについて」
日野 （居宅）	アクティブ福祉 in 東京' 19 (2019.9.30) 「アドバンス・ケア・プランニングの取り組みに向けた職員の不安と葛藤」
日野 （地域包括）	アクティブ福祉 in 東京' 19 (2019.9.30) 「認知症への理解があり、皆で支え合える地域にするための世代や分野を越えて繋がる取り組み」
日野 （若年センター）	全国老人福祉施設研究会議（愛媛会議）（2019.10.30） 「若年性認知症の就労支援～認知症になっても雇用契約のもと働ける～」
新宿 （特養）	アクティブ福祉 in 東京'19 （2019・9.30） 「ボランティアという社会資源を繋げる 地域密着型複合施設としての取組」

(12) 外部団体活動（理事長/施設長）

高原敏夫：理事長

役員	1	財団法人愛敬福祉支援財団理事
	2	社会福祉法人フロンティア福祉会理事
	3	関東ブロック老人福祉協議会相談役
	4	東京都社会福祉協議会高齢者施設福祉協議会顧問
	5	東京都社会福祉協議会法人協議会副会長
	6	社会福祉法人三育ライフ評議員
	7	東京都社会福祉協議会総合企画委員会委員
	8	東京都福祉施設経営指導事業連絡会議委員
	9	東京都社会福祉法人専門家会議委員
	10	全国老人福祉施設社会福祉協議会老施設内部統制改革委員
	11	医療法人アドベンチスト会評議員
	12	東京都社会福祉協議会評議員
	13	社会福祉法人三交会評議員

松澤雅子：東久留米施設長

役員	1	東久留米市社会福祉協議会 評議員
	2	清瀬市障害支援区分認定審査会委員
	3	社会福祉法人 東京アフターケア協会評議員
	4	東久留米市内社会福祉法人連絡会幹事
	5	東京都高齢福祉施設協議会区市町村施設長代表者委員
	6	東久留米市民生委員会推薦会委員

古谷晋：日野施設長

役員	1	日野市社会福祉協議会評議員
	2	日野市介護保険認定審査会
	3	日野市地域保健協議会
	4	日野市介護保険関連施設連絡協議会会長
	5	日野市介護保険運営協議会
	6	日野市地域包括支援センター運営協議会
	7	日野市地域密着型サービス運営委員会
	8	日野市在宅高齢者療養推進協議会
	9	日野市社会福祉法人ネットワーク幹事

高岡宏：新宿施設長

役員	1	東京都認知症介護指導者
	2	新宿区地域包括支援センター等運営協議会委員
	3	新宿区大久保地区社会福祉協議会部会委員
講師	1	東京都認知症介護実践者研修
	2	東京都認知症介護リーダー研修

来島みのり：日野副施設長

役員	1	東京都地域密着型協議会東京都小規模多機能型居宅介護協議会事務局長
	2	東京都社会福祉協議会ショートステイ在り方検討委員会委員
	3	東京都健康長寿医療センター研究所若年性認知症支援事業検討委員会委員
講師	1	東京都主任介護支援専門員資格更新研修
	2	東京都認知症介護研修実践者研修
	3	東京都小規模多機能型居宅介護協議会各研修
その他	1	中央法規出版おはよう 21 連載執筆

7. コンプライアンス委員会 (該当なし)

Ⅲ. 令和元年度 経営状況

1. 常勤職員及び正職員離職率の推移

		R1 離職率	H30 離職率	H29 離職率
法人全体	常勤労働者	16.1%	12.7%	15.2%
	上記のうち正規職員	15.8%	13.6%	16.1%
東久留米	常勤労働者	9.6%	14.0%	6.1%
	上記のうち正規職員	8.5%	16.4%	6.9%
日 野	常勤労働者	9.9%	10.3%	20.5%
	上記のうち正規職員	10.0%	11.1%	21.0%
新 宿	常勤労働者	28.9%	16.3%	17.0%
	上記のうち正規職員	28.9%	14.9%	17.8%

- ・常勤労働者とは、勤務形態について事業所の定める所定労働時間をすべて勤務する職員をいう。（非正規職員を含む）
- ・正規職員とは就業形態として雇用期間の定めのない職員をいう。

2. バイタルデータ（年度別平均値）

サービス種別	事業所名	定員	R1	H30	H29	H28	H27	H26
特別養護老人ホーム 月平均利用率(%)	東久留米	80	95.8	97.7	97.6	97.4	98.3	97.7
	日 野	102	96.2	93.2	96.2	95.0	92.7	96.1
	新 宿	29	97.4	98.7	97.7	99.3	98.0	98.9
特別養護老人ホーム 平均要介護度	東久留米	80	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0
	日 野	102	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
	新 宿	29	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
短期入所生活介護 月平均利用率(%)	東久留米	10	72.4	79.6	82.2	87.8	78.1	83.4
	日 野	18	51.9	63.7	68.3	74.4	70.6	75.0
	新 宿	3	85.9	88.7	86.6	88.6	96.1	94.3
介護職員比率 介護職員1人あたりの利用者数 定員ベース	東久留米	—	2.14	2.14	2.12	2.13	1.82	1.87
	日 野	—	2.36	2.44	2.28	2.27	2.39	2.27
	新 宿	—	1.70	1.73	1.74	1.70	1.43	1.40
高所作業(予防含む)	水川台	50	25.9	511.3	605.9	598.7	674.2	681.0
	大門	10	15.4	241.3	259.6	284.3	304.0	275.2
	多摩川苑	45	27.2	776.7	872.9	891.9	889.2	1021.8
通所介護(予防・総合)	水川台	—	2.5	0.3	13.1	13.3	10.7	8.4
	大門	0/0	28.5	39.8	39.6	42.0	46.7	42.8
	多摩川苑	—	28.0	28.1	25.4	22.6	27.9	32.1
認知症対応型通所介護 月間平均利用人数	水川台	12	7.6	6.7	4.7	4.1	4.7	6.4
	多摩川苑	12	4.3	4.9	6.3	7.7	6.0	6.5
配食サービス(自費食)	大門	—	29.3	22.7	26.5	31.2	37.9	32.7
	多摩川苑	—	58	56.3	54.0	51.0	48.8	53.3
訪問介護サービス	水川台	—	572.7	618.0	601.0	496.5	503.7	535.8
	多摩川苑	—	182.4	203.3	184.8	121.9	121.8	96.7
上段:(介護)のみ(自費食)	多摩川苑	—	243.3	265.7	262.4	291.5	335.1	382.6
中段:(予防・総合)のみ	多摩川苑	—	117.3	112.6	137.0	120.2	116.5	124.1
下段:(障害・市施策)のみ	多摩川苑	—	12.0	18.2	16.8	11.7	24.7	35.3
居宅及び地域包括 要介護認定調査件数(件)	水川台	—	3.3	2.3	3.8	4.9	4.9	4.6
	日野包括	—	5.2	6.0	3.6	7.2	3.8	3.5
	多摩川苑	—	7.3	6.5	7.3	8.0	9.2	4.6
居宅介護支援 給付管理者数(件)	水川台	—	157.1	149.6	150.2	136.1	134.9	130.4
	多摩川苑	—	127.3	119.8	122.8	111.8	104.7	58.9
居宅介護支援(予防)	水川台	—	23.4	31.0	20.5	21.7	20.5	16.3
	多摩川苑	—	32.7	35.2	35.8	22.7	20.8	12.8
地域包括支援センター 予防給付管理者数(件)	東部	—	345.5	347.4	307.4	289.6	260.7	220.2
	多摩川苑	—	107.7	182.9	176.1	155.3	74.8	77.5
グループホーム 月平均利用率(%)	たきやま	9	94.4	92.0	99.8	99.8	98.8	96.6
	ひまわり	9	97.9	98.7	98.8	97.7	95.8	96.6
	おさな	18	91.0	97.4	98.1	98.2	90.1	97.5
	多摩平	9	95.1	98.8	98.1	96.9	95.4	97.0
	つつみ	18	96.4	99.2	98.0	98.6	99.8	99.5
小規模多機能 登録者数(人)	南平	29	23.6	23.7	24.1	23.0	25.6	23.0
	雲町	29	21.1	20.2	22.3	23.1	22.3	24.3
	さくら	29	22.9	23.4	23.6	23.8	25.2	24.5
多摩若年性認知症割合支援C 相談件数	多摩	—	7.8	7.5	8.2	17.3	—	—
	相談件数	—	156.9	303.8	210.4	—	—	—
高齢就労型	登録者数	—	17	13	12.6	—	—	—
	1日平均	—	5.2	6.2	3.6	—	—	—

3. 法人単位の資金収支の状況（資金収支計算書）

（単位：円）

項目	R1	H30	H29	H28
事業活動資金 収支差額	86,034	88,507	106,537	108,134
施設整備等資 金収支差額	▲83,816	▲58,136	▲74,734	▲66,576
その他の活動 資金収支差額	▲6,797	▲8,830	▲11,657	5,130
当期資金収支 差額	▲4,579	21,541	20,147	46,688
前期末資金収 支差額	752,549	731,008	710,861	661,365
当期末支払資 金残高	747,969	752,549	731,008	710,861

4. 法人単位の事業活動の状況（事業活動計算書）

（単位：円）

項目	R1	H30	H29	H28
サービス活動増減差額	▲5,032	21,398	26,358	38,232
サービス活動収益	2,174,136	2,166,987	2,194,174	2,123,985
サービス活動費用	2,179,168	2,145,589	2,167,816	2,085,753
（減価償却費）	145,498	146,014	152,266	155,031
（国庫補助金等特別積立金取崩額）	▲86,388	▲87,772	▲90,701	▲96,099
サービス活動外増減差額	6,646	9,189	6,918	8,602
サービス活動外収益	19,070	23,897	23,928	26,732
サービス活動外費用	12,424	14,708	17,010	18,130
特別増減差額	▲1,209	279	921	▲20
特別収益	37,361	112,681	114,662	119,233
特別費用	38,569	112,401	113,741	119,253
当期活動増減差額	404	30,866	34,197	46,814
前期繰越活動増減差額	766,939	736,073	701,953	641,908
当期末繰越活動増減差額	767,344	766,939	736,073	688,723
基本金取崩額	0	0	0	0
その他の積立金取崩額	0	0	0	13,230
その他の積立金積立額	0	0	0	0
次期繰越活動増減差額	767,344	766,939	736,073	701,953

5. 法人単位の資産等の状況（貸借対照表）

（単位：円）

項目	R1	H30	H29	H28 金額（千円）
資産の部	5,401,884	5,394,927	5,682,177	5,512,265
流動資産	846,165	859,123	860,333	803,626
固定資産	4,555,718	4,535,804	4,821,843	4,708,629
負債の部	787,016	696,883	984,358	831,770
流動負債	202,511	193,428	286,249	251,002
固定負債	584,505	503,455	698,109	580,768
純資産の部	4,614,868	4,698,044	4,697,819	4,680,485
減価償却累計額	3,953,095	4,045,744	3,899,729	3,744,165

6. 積立金の状況

（単位：円）

施設名	積立目的	R1 度末時点の 積立金額（千円）
マザアス東久留米		0
マザアス日 野	施設設備整備・修繕目的積立	10,916
マザアス新 宿		0

7. 関連当事者との取引の内容

（該当取引なし）

8. 準拠している会計基準

社会福祉法人新会計基準

9. 地域福祉ニーズへの対応状況

事業概要	事業開始年度
介護保険サービス等における低所得者の利用者負担減免	H17
地域の単身高齢者等を対象とした見守り配食サービス等の実施	H18
地域の単身高齢等を対象とした各種相談事業の実施	H7
災害時における各種支援活動の実施	H13
他法人との連携による人材育成事業	H26
若年性認知症の方への支援	H21
認知症の方やご家族等、地域の方向けの認知症カフェ事業実施	H27
生活困窮者就労訓練事業の実施	H27

IV.法人本部事務局

1 令和元年度総括

法人の体力強化にむけ、4つの課題にて取り組んでいましたが、成果指標を達成件数は、2件にとどまり、残る2件は継続案件となった。

①介護職員初任者研修事業の継続実施

1. この研修事業も2年目を迎えました。参加者が昨年の10名から5名に減少しましたが参加者からも好評で計画どおり終わりました。講師がすべて各拠点からの職員を派遣してもらい、数名を除き講師も2年目で板についた感じでした。

2. 成果指標

(1) 9月開講 9月開講、2月修了で計画どおりでした。

(2) 5名以上の研修生を確保

各拠点からの派遣で5名を確保できました。

3. 資格取得

外国籍のひとも参加していましたが、仲間のサポートも受け、無事全員に修了証書を渡すことができました。

4. 受講者のアンケートから

- ・自分が日々していることの理論付けを教えられ今後の仕事に役立つと思う。
- ・一緒に学んだ者たちとよい交流ができた。
- ・普段レポートを提出するような勉強をしてないので、苦勞した。この点に関し、講師側もレポートの再提出を何度しなければならず、苦勞したとの意見があった。
- ・学びを通じて法人の一員としての自覚を深めることができた。

②新宿拠点経営の立て直し（継続）

1. 目標を以下のように立てました。

(1) コスト意識をスタッフレベルまで高めること

(2) 経常収支差額 5,000 千円を確保する

(3) 資金繰りの改善のために拠点からの繰り入れ 5,000 千円を要請する。

また成果指標も上記(2)及び(3)としました。

2. 目標の達成度（結果）

- (1) コスト意識をスタッフレベルまで深めることは、現場の責任者に委ねましたが、そのために現場での話し合いなどなかった。現場責任者のコスト意識もそしてそれをスタッフレベルまでという必要性の認識も十分ではなかったと捉えている。
- (2) 経常収支差額 5,000 千円の確保は、逆に 18,000 千円の赤字となりました。
- (3) 他の拠点からの繰り入れは実行されました。

3. 目標達成ができなかった理由

(1) 目標の立て方が問題であった。新宿拠点の立て直しに本部がかかわるという経営委員会の判断は間違いではないが、それを本部の目標として立案し、当該者の新宿拠点の目標となっていなかった。人事権、資金の用い方の責任者は施設長にあり、本部のアドバイスはあくまでもアドバイスに留まらざるを得なかった。

(2) 大幅な赤字となった理由については、

①収益の落ち込み。計算書上は前年度比 470 千円プラスとなっているが、特定処遇改善額の上乗せをマイナスすれば、4～5000 千円の実質マイナスとなる。

② 人件費の増。特に非常勤職員増、派遣職員による増

③ 8,000 千円の経費増。特に修繕費、広報費、手数料、賃借料

4. 次年度に向けて

課題は多く、まずは職員の安定的な確保。予算による収支状況のチェック。将来に向けて方向性をスタッフと特に現場管理者と共有する。

③外国人職員の受け入れに向けた準備

1. 介護職員確保の一環として外国人雇用に取り組んだ。

2. 成果指標 EPA2 名のマッチング

3. 成果

既に EPA 受け入れ実績のあるシャロームの協力を得て目標に達することができた。今後も継続的に受け入れを行い、EPA のサイクルを定着させていく。

4. 技能実習

協同組合を設立し、管理団体としての機能を画策したが、管理団体としての認可は困難な現状にある。新たな採用ルートを模索している状況である。

④多様な働き方への対応

1. 福祉医療機構の経営診断を活用し、賃金制度の分析を行う予定であったが、過年度資料のデータ化ができず、分析に至らなかった。継続案件とした。

V 高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米

1 令和元年度総括

都内では、令和2年2月中旬頃から新型コロナウイルス感染の危機が迫ってきた。東久留米拠点では、2月21日に面会者とボランティアの自粛を要請すると共に、地域交流ロビーの地域開放中止を決め、来訪者への理解と協力を求めた。以降、感染拡大状況に応じて変化する国や都の動きを見ながら、利用者及び職員の健康状態の把握、館内の換気と消毒、品薄物品の手配等々新型コロナウイルス感染拡大防止への対策に追われた。年度末を迎えつつあったが、年度計画の最終の結めの段階で、計画達成に向け注力できなかった感がある。新型コロナウイルス感染拡大のリスクは継続しており、最も回避しなければならない重要課題として継続している。

令和元年度は、赤字部門の収支改善を事業目標の中心に据えたが、就労継続支援B型事業所の収支改善はならず、加えて、特養の稼働率低下のため収益が大幅に減少した。東久留米拠点全体では、前年度比でサービス活動収益が約220万円の減収、人件費が約786万円の支出増、事務費及び事業費で約121万円の支出減を図ったが、当期活動増減差額は、本部へ1,300万円繰入後 約1,591万円の赤字となった。

令和元年度重点課題について、下記に報告する。

① 就労支援B型事業の経営改善

平成29年7月に事業開始した就労継続支援B型だが、事業開始以来大幅な赤字が続いており、平成30年度及び令和元年度に重点課題として計画し取り組んできたが改善できていない状態が続いている。就労継続支援B型の赤字が東久留米拠点全体の収支を押し下げている現状があり、令和2年度においては、事業を継続できるか否かを見極める覚悟で取り組む必要がある。

令和元年度の目標、1日平均利用者数10.75人に対し結果は5.2人であった。目標に大きく届かなかっただけでなく、平成30年度の1日平均利用者数6.2人をも下回る結果となった。

数字が伸びなかったのは、新規見学者が契約まで至らないこと、契約に至った利用者が契約終了又は長期入院となることがあげられる。特に6月に週4～5日利用していた方が2人利用終了となったことは平均利用者数に大きな影響を与えた。

数字が伸びない原因について。就労 B 型を利用する前段階の人が多数いるのではないかと捉えている。本来、病院のデイケアや生活訓練事業の対象となる方が来ているのではないかと。もう一つは安定的に通所できる利用者を確保できていないこと。

1 点目については関係機関への周知、利用者に適した生産活動の準備が足りていなかったと認識している。2 点目については対象とする障害種別を精神障害のみで進めてきたことが背景にあると認識している。

令和 2 年度は、管理体制の見直しや障害種別の拡大、地域ニーズに応えた延長サービスの

検討、利用希望者情報の共有を目的とした定期的選定会議の実施など、今まで以上に組織的に

この事業の経営改善に向けて取り組んでいく。

② デイサービスマザアス氷川台の経営改善

通所事業は、平成 28 年度より一般デイの利用率に低下傾向がみられた為、平成 29 年度より通所事業の経営改善を重点課題に掲げ、3 年間改善に取り組んだ。平成 29 年度は対策が間に合わず通所事業全体で赤字に陥った。平成 30 年度は、認知症対応型通所介護において学習プログラムの充実を図り広報した事で利用率が改善し収支が改善した。一方、一般デイでは、利用率が伸びず苦戦したが、通所全体では前年度赤字幅の半分を削減した。

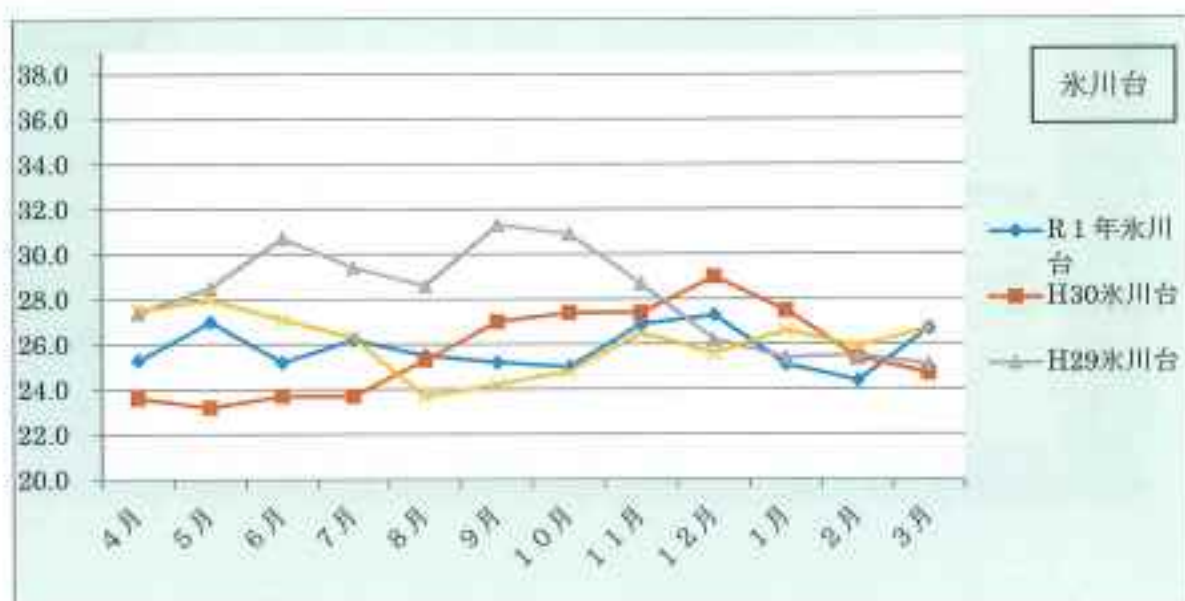
令和元年年度は、6 月にマザアス大門の实地検査があり、同時期に管理者が交替したため現場は引き継ぎ等の事務作業に追われた。令和 2 年 1 月には認知症対応型通所介護の实地検査があり、それらの書類整理、並行して一般デイの書類整理も行ったため、多大な時間を費やし、居宅支援事業所への広報活動が思うようには進まなかったが、一般デイの赤字幅を平成 30 年度より減らすことが出来た。通所全体では 3 年ぶりに赤字から脱した。内訳は以下の通り。

	通所水川台			認知症対応型通所介護			通所大門		
	H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度	H29年度	H30年度	R1年度
事業収入	85,307,256	73,192,940	75,731,882	16,889,545	24,843,194	27,931,380	42,954,066	41,054,057	38,526,088
人件費	66,837,668	67,018,667	67,609,479	17,773,653	16,599,306	17,754,889	26,954,767	25,472,431	24,347,185
事業費	10,452,313	11,835,636	11,761,854	2,599,585	2,332,947	1,922,942	7,440,744	6,800,061	6,712,458
事務費	4,641,348	4,898,572	5,030,783	992,350	1,105,807	1,283,202	12,260,254	5,667,974	5,478,098
経常増減 差額	3,266,900	△10,591,714	△8,729,700	△2,474,515	4,811,615	6,980,708	△3,899,242	3,305,884	1,988,347
	H29年度	H30年度	R1年度						
通所全体	△5,225,044	△2,474,515	239,355						

通所水川台（一般デイ）では、デイ利用者の主要ニーズである入浴支援に対する理解と協力を得られる介護人材を整え、中間浴槽を増設した。これにより将来的に現在よりも入浴希望者のニーズに応えられる体制となり、利用者増加につなげる基盤を築くことができた。また、リハビリマシーンを4基、新規導入しデイルーム中央に設置した事で、機能維持に資する通所事業所として職員の自覚や、利用者・見学者・居宅支援事業所等からの期待の声も聞かれている。

職員教育では、居宅支援事業所のケアマネジャーやご利用者・ご家族への接遇を改善するよう指導した。関係機関やお客様の存在に感謝し、デイサービスで出来る事の範囲を広げ、ケアマネジャーやお客様のお役に立てる為にはどうしたらいいかを考える姿勢を、相談員・看護師を中心に浸透させる様に努めた。サービス業の基本である「貢献」が、結果的に居宅支援事業所の信頼を得、次の新規利用につながる事を理解する様に指導し、いくつかの居宅支援事業所からは継続して新規利用の申し込みが来るようになっている。

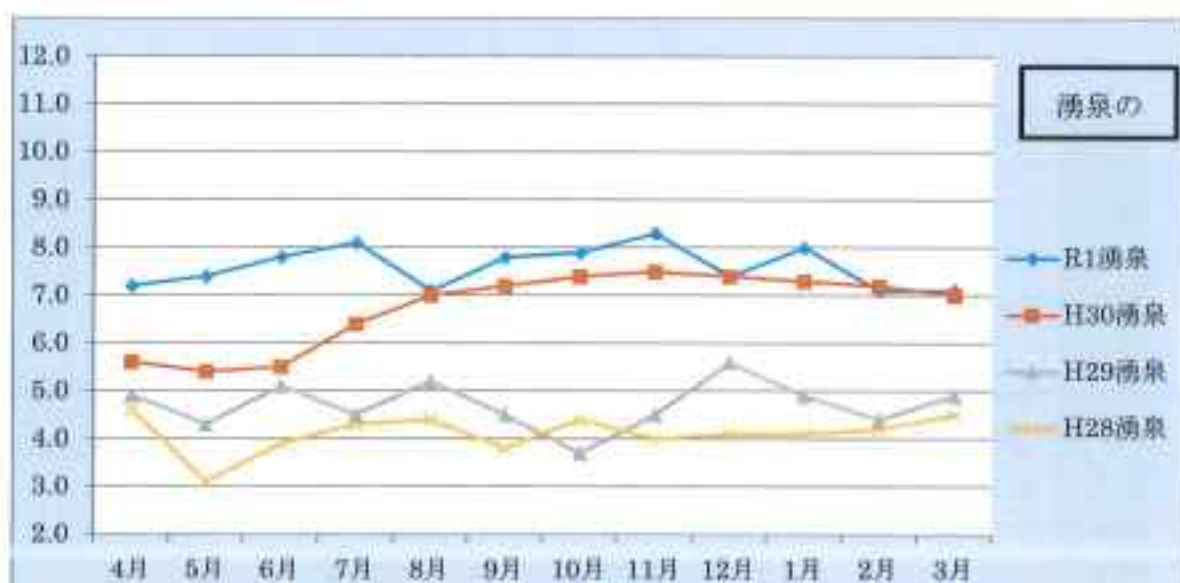
又、ご利用者から好評をいただいている「ひだまりカフェ」（通所内カフェ）の日数を増やす事が、利用率の維持に繋がっている。30年度報酬改定で創設されたADL維持等加算、生活機能向上連携加算については、僅かではあるが算定できており、次期介護報酬改定のポイントとしてささやかれているエビデンスに基づくアウトカム評価の準備段階としては、定着しつつある。しかし、利用率の大幅改善には至らず、一般デイは今年度約873万円の赤字であった。



認知症対応型通所介護「湧泉の郷」では、学習プログラムが定着した。公文式とタイアップして「学習療法」としてスタートする計画であったが、未達に終わった。

学習プログラムによる認知症状緩和や改善、通所意欲の向上等の効果は継続しており、利用率は維持されている。2月～3月は、新型コロナウイルス拡大の影響を受け、お休みされる方が複数見られたが、今年度約698万円の黒字で終える事ができた。

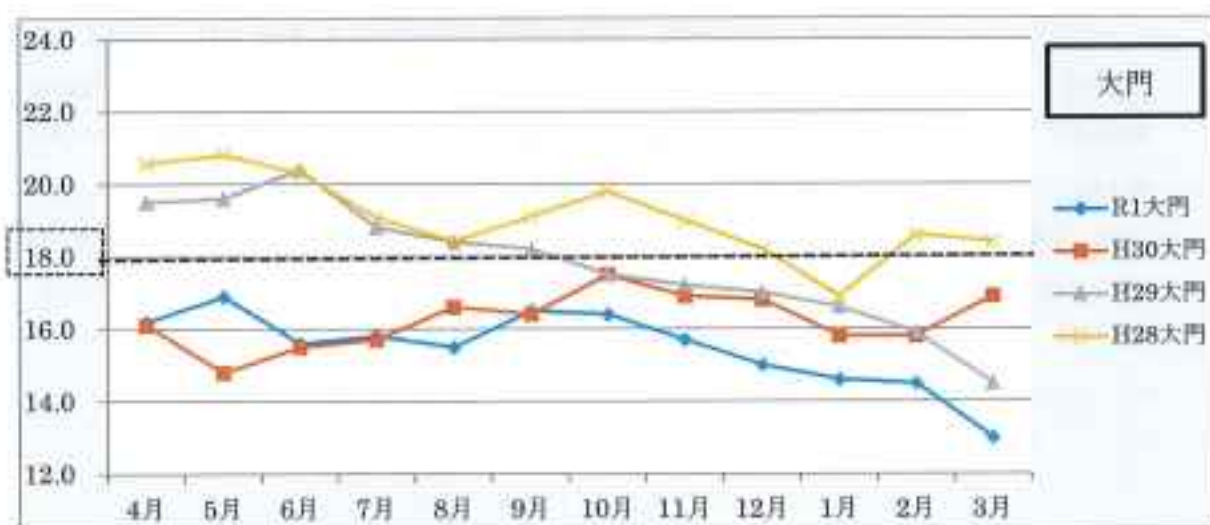
令和2年1月に実地検査を受け、市のご指導をいただいた。現在のところ、特段大きな文書指摘もなく経過している。



通所大門では、利用率の低下により事業収入は前年度に比べ約 252 万円の減収となった。配食部門を切り分けると配食事業は約 120 万円の赤字だが、それを含めても通所大門としては約 198 万円の黒字であった。

令和元年 6 月の実地検査では改善すべき事項が散見され、多くのご指導をいただいた。管理者の変更や職員の異動も重なり、一時期現場は大変な状況を迎えたが、改善を重ね現在は落ち着いている。

通所大門では、これまで要介護で 1 単位、要支援の午前と午後の 2 単位で、合計 3 単位の事業を行ってきたが、地域密着型通所介護の定員である 18 名を、上回る事が恒常的に無くなったため、次年度から 1 単位で事業を行う事とした。職員配置もそれに見合った人員体制に徐々に改善していく予定であり、軽度者を対象とした通所事業としてスリム化していく。



③働きやすい職場づくりに取り組む

働きやすい職場を目指して全部署で取り組んだ結果、年次有給休暇については、対象者において5日間以上の有給取得ができた。残業時間削減については、下記のとおり、部署によってばらつきがみられており、次年度に継続する課題である。

超過勤務比較 2019年4月～12月：2018年4月～12月		
介護課	119% ↑	
看護課	117% ↑	
支援課	103% ↑	
総務課	111% ↑	
就労B	88% ↓	※職員1名削減
訪問介護	75% ↓	
居宅支援	47% ↓	※前年度実地検査による超過過多
包括	80% ↓	※今年度1名職員 長期休職期間有
通所氷川台	131% ↑	
通所大門	87% ↓	※職員の異動有
GHたきやま	171% ↑	
GHひかわだい	194% ↑	
GHおがわ	142% ↑	

東久留米拠点では、改めてハラスメント相談窓口を明示したフローの周知を図った。

ハラスメントについては、国の施策（労働施策総合推進法）に明記され、事業主に雇用管理上の措置を講じる事を義務付けている。令和元年度は、外部講師を招いて役職者を対象とした「職場のハラスメント研修」を開催し、ハラスメントの無い働きやすい職場づくりについて学びを深めた。また、一般職員から実際にハラスメントの相談も受け付け、職場として環境改善に取り組んだ。今後もハラスメントに対する方針の周知、啓発が必要であり、働きやすい職場づくりを意識したコミュニケーションを図っていく。

2. 特別養護老人ホーム マザアス東久留米／短期入所マザアス東久留米

令和元年度の死亡退所者は23名、入院者が年間で13名あり、空床期間が多く発生した。特養待機者構造の変化等の影響を受け、令和元年度の平均稼働率は95.4%、短期入所も70.4%と共に過去最低の結果となった。職員配置は人数的に顕著な変動がないため人件費率は上昇。介護職員数にも大きな変化はないが、フルシフトが可能な介護職員数は減少しているため、介護現場の手薄感が常態化し残業時間も減らない状況であった。介護人材の多様化を鑑み、介護業務の機能分化を促進し、多様な人材に合わせた育成の仕組みの構築が急務である。

	特養	ショートステイ	合計
利用定員	80	10	90
利用者数（延べ）	28,037	2,655	—
1日平均利用者数	76.6	7.2	—
稼働率	95.8	72.4	—
稼働日数	366	366	—
平均介護度	4.2	介護3.0 支援1.7	—
単価（1人1日当り）	13,090 円	12,175 円	—
総収入（補助・寄付除）	367,024 千円	32,326 千円	—
職員数（常勤換算）	56.4	***	56.4

3 通所サービス課

○デイサービスセンターマザアス氷川台

～今年度の取り組み～

1.相談員が居宅営業に力を入れた。

相談員の意識が高まり定期的に居宅回りを行い、居宅からのニーズに積極的に対応する様にした事がご利用者やご家族の満足度につながり、徐々に新規利用も増加する結果となった。

2.リハビリ機器導入

ケアマネジャーからの強い要望があったリハビリを強化した。

生活機能向上連携加算Ⅰを4月から開始したところ、希望者が多数寄せられ、3ヶ月間で43名の対象者に向けて加算に準ずる機能訓練をできることとなった。

機能訓練指導員の都合で、計画書の作成が追い付かず、加算受け入れを停止している。しかし、居宅向けの営業材料として広告を実施したところ、反響が増えてきている。

3.入浴機器の追加

新品の中間浴槽を追加し、中間浴槽2台、機械浴槽1台体制に変更した。

職員の動線も円滑になり、男女の入れ替え等もスムーズに行え、効率性が上昇し、人数を増加させることができる体制が整った。

4.ひだまりカフェの定着化

昨年度まで週2～3日程度、デイサービスの一角を活用して開催していたが、ご利用者からの要望を受けて週5日で開催している。カフェでご利用者同士の交流をもつ事が、入浴のないご利用者の通所の目的になってきている程、ニーズと合致している。

○認知症対応型デイサービス湧泉の郷

1. 昨年度から開始した学習プログラムをさらに発展させ、学習療法を商品としている

公文と正式に提携するべく他施設の見学や学習教材の料金設定等、公文の担当者に進めてきたが、料金設定の部分で合意に至らず再度、法人と公文で交渉を進める予定となっている。

現在無料で実施している学習プログラムはご家族やケアマネへのPRを行っており、評判は良好であり、稼働率の上昇に繋がっていると考えられる。

	介護・予防	認知症対応型	合計
利用定員	39	12	51
利用者数（延べ）	8,018	2,321	10,339
1日平均利用者数	25.9人	7.5人	33.4人
稼働率	66.1%	63.3%	65.6%
稼働日数	309	309	***
平均介護度	介護2.0 支援1.8	介護2.5 支援2.0	介護2.1 支援1.8
単価（1人1日当り）	9,444円	12,024円	10,024円
総収入（寄付・補助除）	75,730千円	27,910千円	103,640千円
職員数（常勤換算）	23.8	***	23.8

4. デイサービスセンター マザアス大門

～今年度の取り組みと結果～

1. 人件費の削減

監理者を含む常勤2名が人事異動により欠員したが、新規採用をかけずに、氷川台の常勤を異動させて監理者に配置し、もう一名は通所サービス課長が氷川台相談員と兼務する人員配置にした。通所全体では常勤職員2名分の人件費を削減できた。大門は常勤の残業が多かった為、効果は大きかった。

2. 法令を順守した運営

6月の実地検査で、前年度から人員配置基準を一部満たさずに運営を行っていたことが発覚した。具体的には相談員と看護師一名以外の全職員が送迎に出ており、地域密着型通所介護の単位、総合事業型通所介護（午前）（午後）のという計3単位のいずれかに、介護職員不在の時間帯が発生してしまっていた事である。すぐに改善し改善報告書を提出したが、次年度からは定員18名の地域密着型通所介護として1単位で運営し、引き続き人員基準を順守していく。

3. 配食事業の見直し

今年度は120万円の赤字という結果であった。

原因としては、氷川台で昼に配達している配食の件数(1日：1件～5件)が中途半端に存在している為、人件費が無駄になっている点であり、11月より、昼の配食に関しては新規の受け入れを中止した。さらに昼と夕の予備の弁当で年間約40万円が無駄になっている事が原因になっている。しかしながら、氷川台デイの利用者がデイサービス帰りに弁当持参で帰るセット販売で、デイの新規利用が獲得できており、配達の人件費が直接かからない形態が増加しており効率的な部分も生じている。

4. 職員の質の向上

職員定着率が良く勤続5～10年の職員が多い事は良いが、新人を育成する仕組みや統一したマニュアルがなかった為、人によって教え方が異なり、指導の仕方がバラバラとも受け取られ新規採用者が定着しなかった。人員配置基準を満たすために部署内の異動で対処する時期も生じた。指導や職員の入替等により、職場の雰囲気も変化し、新規採用職員2名が定着しつつあり、ご利用者様へのサービスに対しての質の向上につながっている。

	介護・予防
利用定員	介護 10 名/予防午前・午後各 9 名
利用者数 (延べ)	4,744
1 日平均利用者数	15.4 人
稼働率	55.1%
稼働日数	307
平均介護度	介護 1.3 支援 1.7
単価 (1 人 1 日当り)	7,020 円
総収入 (補助・寄付除)	33,307 千円
職員数 (常勤換算)	7.3

5. ヘルパーステーション マザアス氷川台

平成30年度は新規相談68件、平均稼働時間830時間だったが、平成31年度は新規相談89件、平均稼働時間762時間だった。

相談件数は増えているが、実際サービスにつながったのは33件で、入れるヘルパーがいない為お断りしたケースが6割となっている。

ヘルパー不足により、サービス提供責任者が代行に入ることが多くなっており、事務所が不在の時間が増えている。

朝・夕・土・日は特に入れるヘルパーがいない為、サービス提供責任者が残業にて対応している状況にある。

人材の確保ができない限り、今の状況を継続するか、仕事を断るか2択しか選択肢は残されていないため、人材確保が早急な課題となっている。

介護給付			予防給付		単価（円）		総収入 （千円）
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	介護 （回）	予防 （月）	
57.1	645	7,742	193	2,321	3,313	18,366	32,425

6. 居宅介護支援事業所 マザアス氷川台

令和元年7月、他部署より1名異動となり、新人ケアマネが増員となった。通所にて利用者との関わりがあったため、半年で個人目標を達成することができ、6名体制で安定したサービス提供が可能になっている。

地域を考えた時、マザアスがある東部地域は居宅介護支援事業所が少なく、規模が小さい居宅が多いため、東部地域包括支援センターよりの相談も多いが、受け入れ件数にも動きに限りがあるため、すべての依頼を受け入れられない現状がある。

特定事業所加算をとっている事業所として地域の信頼に答えていくためには、依頼を受けていく事が大切だと考える。

介護保険の動向のみならず地域の動向を見据えて、人員体制を考えていく必要がある。

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	総収入 （千円）
介護	予防	介護	予防			
1,885	281	16,128	4,614	40	4,104	31,923

7. 東久留米市東部地域包括支援センター

高齢者の総合相談対応や要支援者の介護予防支援はもとより、地域の自助・互助のしくみを整備するための以下の事業を実施した。

認知症対策関連として「認知症サポーター養成講座」「認知症サポーターフォロー講座」「認知症家族会」の開催、サポーター養成講座では、今年度も小学校 2 校で実施、子供達だけでなく親世代・地域住民にも周知してもらうように学校公開日に講座をした。

地域のケアマネジャー支援として「地域ケアマネ懇談会」「ケアマネサロン」の開催。

地域づくりの取り組みとして「地域ケア個別会議」「第二層協議体」「地域見守りネットワーク会議」などを実施した。

年々、複雑な困難ケース、虐待ケースが増えており、包括としての役割が大きくなっていく一方で職員の負担感が増大していく状態の中で包括が2ヶ所に分かれ、お互いの様子がわからないままの勤務となり、コミュニケーションがとりづらい状態になってしまった。働きやすい環境作りを1年かけて検討、職員調整を行った。

今後も、より働きやすい環境作りを継続し、利用者・地域住民の為に包括を目指していきたい。

	受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち、 再委託件数	予防プラン 単価(円)	総収入 (千円)
R1	37,751	4,146	940	4,601	56,811
H30	37,476	4,168	1,459	4,601	51,561

下段は H30 年度

8. グループホームたきやま

R元年度（H31年度）も昨年度に引き続きご利用者の体調不良による入院や入退所により、稼働率は92.6%と目標数値を大きく下回っている。そのためR2年度はご利用者の体調管理及び、医療機関との連携を強化し、体調不良などによる入院や入退所による稼働率の減少を抑えるよう努める。またR3年6月に事業閉鎖となるため、マザアスと連携を密にし、ご利用者の新規受入先を見つけ、スムーズに移動できるようご家族と共に支援をしていく。職員体制という点では、R元度中はパート職員3名の入職（内1名は1ヵ月で退職）とR元年11月に正規職員の異動（R2年4月より管理者交代のため）により職員人員は確保ができ、安定したご利用者へのサービス提供が出来ている。法人目標である残業削減については、職員の人員は確保できているにも関わらず、ご利用者の入退所などによる管理者の超過勤務と有休消化5日取得の法人目標をクリアするために主に正規職員が業務のカバーをしたため超過勤務が発生し、残業削減率は前年度と比べ+215%となっている。R2年度は職員の配置や職員ミーティングの開催時間などを見直し、残業削減に努める。また有休消化5日取得については、対象職員全員が取得できている。職員のスキルアップについては、新人職員を主にマザアス全体の研修だけではなく、ホーム内での研修を昨年度に引き続き年4回実施し、外部への研修には行く事が出来ない分のカバーを行なった。重点課題に挙げていた、「公共機関を利用しての外出」については昨年度と同様、気候やご利用者の体調不良が重なり、法人の車を利用した外出の機会は持てたが、公共機関を利用する事はできなかった。そのためR2年度は、ご利用者の身体能力に合わせた移動方法を検討し努めていく。また「地域との交流を図る」についても、新規のボランティアの受入はないも、活動を継続する事ができているため、毎月ボランティアの方との交流ができ、また地域の活動への参加や地域の方を招いた行事を行なう事ができたため、目標数値を満たす事ができている。

9. グループホームひかわだい

令和元年度途中から管理者が変更となった。毎月スタッフミーティングを開催して個別ケア、事故対策等の情報共有を行ってきた。また定期的に研修を開催して職員の介護知識や技術の向上、サービスの標準化を目指した。職員体制は2月に職員1名が退職し、人員体制が厳しい状況にあるが、ケアの質を落とさず業務の見直しを行いながら対応している。ご利用者は1名が癌のため入院、7月に退所された。8月に胆管結石のため入院の方が1名おり稼働率が96.3%だったが、その後は100%と安定している。感染症についてはインフルエンザの発症なく感染者は0名だった。骨折者は0名であるが廊下等での転倒はあった。今後は更に職員の知識や技術を高めて、危機管理能力を強くしてい

きたい。そして職員個々が提案する場面が増えているので発信力や実行力に繋げていきたい。

10. グループホームおがわ

令和元年度はご利用者の入退所の多い年であった。看取り介護1名に始まり長期入院から退所になるケースも多く稼働率に大きく影響した。入退所ゼロの前年度と異なり新入居の後にすぐ退所発生の繰り返しで2階が顕著な例で9名中5名が退所。1階は1名のみ。これに対する入居者選びが難航し待機者リストは介護困難等による対象外が多く、新規問合せが少ないことも重なり空床期間が長くなった。市内の地域包括等に空床情報を流すなど営業的な手段も必要となった。退所者2名は近隣の新設特養への移動者で利用料が安価で医療の充実した特養に家族希望で行くケースも出たため、取り巻く環境の変化にも柔軟に対応する必要性を感じた。特に、急な退所が発生してもすぐに候補を挙げられるよう日頃からの待機者選定は来年度の課題である。また、医療機関と更なる連携を取り、急病の早期発見や事故防止にも力を入れていくことで安定した稼働率を図りたい。

前年度発生した集団感染は、今年度見られず、コロナなど職員から感染しない様、衛生管理に努める。

グループホーム	ひかわだい	たきやま	おがわ
利用定員	9	9	18
利用者数（延べ）	3,233	3,135	6,018
1日平均利用者数	8.83	8.56	16.44
稼働率	97.9	94.4	91.3
稼働日数	366	366	366
平均介護度	2.4	2.7	2.6
単価（1人1日当り）	14,210 円	14,037 円	14,529 円
総収入（寄付・補助除）	45,941 千円	44,006 千円	87,438 千円
職員数（常勤換算）	6.8	9.0	15.8

11. 就労継続支援 B 型事業所 マザアス

平成 29 年 7 月に事業開始した就労継続支援 B 型だが、事業開始以来大幅な赤字が続いており、平成 30 年度及び令和元年度に重点課題として計画し取り組んできたが改善できていない状態が続いている。就労継続支援 B 型の赤字が東久留米拠点全体の収支を押し下げている現状があり、令和 2 年度においては、事業を継続できるか否かを見極める覚悟で取り組む必要がある。

令和元年度の目標、1 日平均利用者数 10.75 人に対し結果は 5.2 人であった。目標に大きく届かなかっただけでなく、平成 30 年度の 1 日平均利用者数 6.2 人をも下回る結果となった。

数字が伸びなかったのは、新規見学者が契約まで至らないこと、契約に至った利用者が契約終了又は長期入院となることがあげられる。特に 6 月に週 4～5 日利用していた方が 2 人利用終了となったことは平均利用者数に大きな影響を与えた。

数字が伸びない原因について、就労 B 型を利用する前段階の人が多数いるのではないかと捉えている。本来、病院のデイケアや生活訓練事業の対象となる方が来ているのではないかということ。もう一つは安定的に通所できる利用者を確保できていないこと。

1 点目については関係機関への周知、利用者に適した生産活動の準備が足りていなかったと認識している。2 点目については対象とする障害種別を精神障害のみで進めてきたことが背景にあると認識している。

令和 2 年度は、管理体制の見直しや障害種別の拡大、地域ニーズに応えた延長サービスの検討、利用希望者情報の共有を目的とした定期的選定会議の実施など、今まで以上に組織的にこの事業の経営改善に向けて取り組んでいく。

	R1 年度
登録者数	17
1 日平均利用者数	5.2

12.地域公益活動

来所給食

一人暮らしや高齢者だけの世帯などの理由により、バランスの良い手作りの食事を摂る機会の少ない方々にマザアスに出向いていただき、安価な料金で栄養バランスの良い食事を提供するサービス。自宅から徒歩で来所されることが健康維持につながり、運動と栄養の相乗効果として表れている。

令和元年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
食数	28	28	32	24	30	32	37	31	32	29	37	24	364 食

生活困窮者就労訓練事業

この事業は、平成 27 年度に高齢者福祉総合施設マザアス東久留米が東京都知事の認可を受けて、生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者を受け入れ就労訓練事業を行うものである。生活困窮者自立支援事業は、すぐに一般就労はできないが福祉的な就労にも該当しない人が、一般就労をめざして社会参加する場＝中間的就労として位置づけられている。マザアス東久留米では平成 27 年度の認可を受けた後、東久留米市担当窓口から 4 人を紹介され全員を受け入れてきた。現在は全員がマザアス東久留米と雇用契約を締結しており、離職者数は 0 である。当初よりマザアス東久留米での直接雇用を念頭に就労訓練を受け入れてきて一定の成果は上がっているため、今後は就労訓練のみの受け入れを検討する段階にある。

「はたらくサポートとうきょう」

この事業は、社会福祉法人の事業所が一般就労と福祉的就労の間に位置する中間的就労の「はたらく場」として「はたらくたいけれど はたらくにくい人」を受け入れて、相談支援機関とともに支援をする東京都地域公益活動推進協議会の広域の連携による取組みである。

マザアス東久留米においては平成 27 年度以降、16 人を受け入れてきた。紹介先は三鷹わかものサポートステーション、練馬わかものサポートステーション、練馬区保健相談所、東久留米市福祉総務課など。ボランティアやイベントのお手伝いなどから始め、現在は 8 人と雇用契約締結をしている。生活困窮者就労訓練事業と同様、当初よりマザアス東久留米での直接雇用を念頭に受け入れを進めてきた。今後は就労体験だけの方の受け入れを検討する段階にある。

マザアス健康体操

マザアス健康体操は、地域の方々にいつまでも元気で活躍していただきたいとの思いから平成 20 年に開始し 12 年目となった。月 3 回、介護予防運動指導員を中心に、上下肢の運動、ストレッチやセラバンド体操、シナプソロジーを取り入れた脳の体操まで幅広い体操を行っている。一日の定員を 25 名として実施。継続される方が多く、登録人数も増えている。令和 2 年 3 月は新型コロナ感染拡大防止の為中止した。

令和元年度実績（延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	66	57	59	58	39	50	55	62	67	48	45	休	606 人

バスドライブ

日頃マザアスの趣味活動などを支援して下さっている地域の皆様と職員が、年 1 回マイクロバスを借りて外出、交流を図る。昼食代のみ実費。ここ数年の実績は以下の通り。

平成 27 年度	深大寺バスドライブ	参加者：地域の方 15 名	職員 4 名	計 19 名
平成 28 年度	青梅小澤酒造見学	参加者：地域の方 11 名	職員 3 名	計 14 名
平成 29 年度	グリコ製工場見学	参加者：地域の方 13 名	職員 3 名	計 16 名
平成 30 年度	川越喜多院菊まつり、日高サイボクハム見学	参加者：地域の方 16 名	職員 5 名	計 21 名
令和元年度	渋沢栄一記念館見学、上里カンターレ、ガドーフェスタハラダ見学・買物	参加者：地域の方 19 名	職員 7 名	計 26 名

オレンジカフェ「和」

住民同士の交流や認知症への理解を深める事を目的に、平成 28 年度に開始。認知症サポーター養成講習受講後、フォローアップ研修を修了した方々が主な担い手となり、都営住宅の集会室を会場として、月 1 回定期的にカフェを開催。健康や介護、趣味の講座などを企画し、実施している。独居高齢者の参加が定着し、住民同士のつながりや情報の共有、認知症の予防プログラムに力を入れている。令和 2 年 2 月、3 月は新型コロナ感染防止の為中止となった。

令和元年度実績

毎月第 4 月曜日開催、10 回開催。延べ人数 80 人。サポーター延べ人数 44 人。

歌声マザアス

音楽療法士さんの協力により、地域住民が集い楽しく歌う事を通して脳の活性化や住民同士の交流を図る事を目的に、平成 29 年 6 月に開始。歌の好きな方が、誘い合って参加され少しずつ増えてきている。参加者にはコーヒーなどの飲み物を提供し、歌声喫茶風の雰囲気を楽しんで頂いている。ジャンルの違う曲や楽器の使用、参加者の思い出の歌をリクエストして貰うなど参加意欲につなげる工夫をしている。

令和元年度実績

毎月第三土曜日 14:00～15:30 にマザアス地域交流ロビーで開催。2 月は音楽療法士研修の為無し。3 月は新型コロナウイルス感染防止の為中止。全 10 回開催した。参加延べ人数 137 人。

トークサロン

地域にお住いの高齢者同士の交流や関係づくりを目的に、平成 24 年 10 月に開始。近隣の民家を借りてスタートしたが、29 年度より、会場をマザアス東久留米 3 階地域交流ロビーに移し継続している。一緒にお茶を飲みながら談笑する縁側のような場所。令和 2 年 2 月、3 月は新型コロナ感染拡大防止の為中止となった。

令和元年度実績

毎月第 4 水、10 回開催。参加延べ人数 75 名

VI高齢者福祉総合施設 マザアス日野

1. 令和元年度総括

元号が改められるのと時を同じくして、マザアス日野は20周年を迎えた。この節目を多くの職員と、同じく様々な場面でサポートしてくれている多くのボランティアや地域、行政の皆さん、そして当施設を選び利用してくれているご利用者やそのご家族と共有できたことは、何にも代えられない喜びであり、そして改めて感謝の念を持つこととなった。

マザアスでの勤続20年を迎えた(5月1日時点)職員は12名に上る。これら職員を含め、年度末時点で勤続10年以上の職員は、全体の35%になる。長きにわたり利用者や地域を支え、マザアスを支え、マザアスを作り上げてくれている職員が大勢いることは、マザアス日野の大きな強みになっている。

一方で、経年課題となっている人材確保については、離職率の数値として日野事業所全職員で11.1%、日野事業所内の介護職員全体でも10.2%、内正規介護職員全体では7.6%と、昨年度よりも更に低減できた。但し、離職者の内勤続3年未満の職員は、離職者全体の6割程度を占めている。これは昨年度同等の数値であり、入職後の人材育成や早期離職防止に向けた現在の取り組みを継続する必要性が高いことを認識している。

経済状況においては、最も大規模な事業である特別養護老人ホームにおいて昨年度比で大きく改善を維持できたことによる影響で、安定した数値を残すことができた。これは、特養部門全体として誤嚥性肺炎予防に取り組んだことと、利用者や家族の希望に応じた看取り介護の推進により導き出された結果であり、当該取り組みが利用者のみならず組織の経済面へ好影響を及ぼしたことは高く評価できる。最終的に、当期活動増減差額で29,882千円を残すことができた。人件費率は73.9%(委託費込)、収益率は4.65%であった。

法人内で初めての試みとなるEPAに基づく介護福祉士候補者の採用が決まったことは、今後に向けて大きな一歩であった。今後は、当該候補者の受け入れから育成、定着に向けた準備を進める。

① 拠点内における人材育成と体制整備

昨年度と同一の課題に取り組んだ。強固な組織を作るために、組織をまとめる管理職の育成、その管理職をサポートする中堅職員の育成、全体のレベルアップの3点が主な視点である。管理職の育成においては、法人の管理職研修に加え、拠点独自の研修を年間3回実施した。新たな知識や考え方の教授に加え、拠点内に勤務する管理職という同じ役割を担う職員が同じ研修を受講することで共通認識を醸成する機会にもなった。但し、多忙な管理職への負担を考慮した開催を今後検討する必要がある。中堅職員の育成においては、年1回の研修を開催した。昨年度は、短時間の研修を年3回開催し、同一内容で2クール実施することで参加者を増やした。今年度は、参加しやすい開催方法を模索した結果、1日研修を1回行った。これにより、従来は夜間に開催していたため、参加できなかった対象者も参加することができた。今後も対象者を変え、当該研修受講者を増やす。全体のレベルアップにおいては、昨年同様に内部で開催する研修を必修研修と位置づけ、業務としてスキルアップすることとして取り

組んだ。研修受講の必要性認識や、研修参加に伴う意識の変化等、効果を感じられる部分も出始めている。今後は、研修講師を担うことによる、個のスキルアップも含め当該研修を活用する。

② 小規模事業所（日野拠点内の小規模多機能型居宅介護及び認知症対応型共同生活介護）の相互連携及び管理体制の確立

詳細は後述する。小規模事業所3か所がつながりを持つことにより、小規模であるが故の弱みを克服し、3か所を要することを事業所の強みに転換することを目指して取り組んだ。それぞれが持つ強みや、現在までの歴史を踏まえて統合する部分もあるため、一朝一夕には実現しないが、横のつながりや連絡体制の構築等、確実に前に進んでいると考えている。

③ 通所事業所における経営の改善

詳細は後述する。稼働率の改善及び配置の適正化を主な取り組みとして実施した稼働率については、例年にないほどの新規利用者を獲得したが、それ以上に契約解除になる利用者が多く、結果としては獲得した新規利用者程の稼働率改善にはつながらなかった。配置の適正化については、業務の見直しや改善と併せて進めた。職員の異動については、経営的な視点のみならず当該職員の適性や全体としての必要性から判断し実施した。

④ 若年性認知症に関する就労支援

詳細は後述する。社会貢献の一つとして、また東京都からの委託を受けている事業所として先駆的に取り組む社会的な使命として、継続的に実行している。実践のみならず、当該実践を社会全体に向けて発信できるよう、有識者の意見を踏まえて検討できる体制を継続的に構築していることも大きな特徴と言える。

⑤ 日野（万願寺）施設における建物設備の大規模改修への計画

詳細は後述する。従来、逼迫した財政状況の中で、思うように積立金の計上には至らなかった。今年度は、既述の通り、経営面での数値が改善したことにより、積み残す数字としては例年以上の数値を計上できた。

2. 特別養護老人ホーム マザアス日野／短期入所 マザアス日野

＜特別養護老人ホーム マザアス日野＞

今年度は稼働率の向上維持による経営改善を目標に、一つは特養関係部署による重度化への対応として、口腔ケア強化、食事提供評価、食事能力評価、看取り介護の向上に取り組み、入院日数の減少に寄与し、通年稼働率で昨年度比 3%以上の改善を達成できた。

二つに、空床期間短縮のため、面接件数の増加に取り組んできた。しかし、すでに他の特養からの話が進んでいることが多く、全 37 件中 14 件とほぼ半数。ほとんどの待機者は早く声がかかった施設への入所を希望。そのため、スピード感を待機者は求めていることがわかる。年間平均稼働率は目標に近似値だが、1 月から 3 月にかけては 95%から 93.5%と低下。原因は、この 3 か月間で死亡退所が 10 名となったことが大きい。また、声掛け済み待機者 8 名のうち 6 名が他特養への入所が決まっており、2 月の入所は 0 名であった。

昨年度には 80 名以上の待機者がいたが、現在は 65 名程度の人数しかおらず、待機者も減少している。これらの状況から、今後もこの課題を重要課題と捉え、入所申し込みを受けた段階から、必要性が高い方であれば迅速な入所に向けて働きかける等の動きが求められ、スピード感を持って対応していく必要がある。

＜短期入所生活介護 マザアス日野＞

年間稼働率は 49.6%であり 5 割を切っている。特に大きな要因は利用回数の多い利用者の特養への入所である。月の半数ほどの日数を利用している方が特養などへ入所することで、利用回数は大きく減ってしまう。新規の方の利用者は通常、月数回と少ない頻度で利用するため、なかなか稼働には繋がらない現状となっている。

平成 31 年 4 月から日野市内にて特養の新設があり、老健、単独ショートステイ事業所などを含めるといわゆる「泊まり」サービス事業所の数は多くなり、生き残るために「選ばれる事業所」と「選ばれない事業所」がはっきりしてきている。当事業所としての特色、社会福祉法人としての在り方、再び利用したいと選ばれる事業所となるために、課題をつきつめ、具体的な対策を講じる必要がある。また、昨年度より新規利用の際に必要としていた主治医意見書が不要となったことで緊急な受け入れも可能となり、地域包括支援センターからの依頼を受けた緊急一時保護事業も可能な限り対応してきた。急な対応が求められるケースにもこれまで同様対応していく。

	R1 特養	H30 特養	R1 ショートステイ	H30 ショートステイ
利用定員	102 名	102 名	18 名	18 名
利用者数（延べ）	36,725 名	35,989 名	3,371 名	4,184 名
1 日平均利用者数	100.6 名	98.6 名	9.2 名	11.5 名
稼働率	96.2%	93.2%	51.9%	63.7%
稼働日数	365 日	365 日	365 日	365 日
平均介護度	4.1	4.1	3.0	3.4
単価（1 人 1 日当り）	12,786 円	12,409 円	12,515 円	12,665 円
総収入（補助・寄附除く）	469,589 千円	446,605 千円	42,189 千円	52,992 千円
職員数（常勤換算）	72.0	66.2	7.0	6.0

3. デイサービスセンター マザアス多摩川苑

経営改善として、居宅介護支援事業所訪問は管理者と相談員にて、市内全域を網羅し、前期後期それぞれ1回ずつ訪問した。訪問時不在の事業所については資料を送るなど、利用に結びつくきっかけ作りに努めた。その結果利用依頼は増加し、実際に利用いただくケースが増加。利用日増については、ニーズを確認し、ご本人、ご家族と担当CMを交えて協議し、利用日増を図った。また、一般型から認知症対応型への移行についても同様にご本人、家族、CMの意見を踏まえつつも通所側からのアセスメントに基づいて移行をお勧めし、数例移行を行なうことができた。しかし、実績としては増加した一方、入院、入所、死亡などによる利用取下げ数は減少することなく、相殺され、全体としての利用者、利用日数増には至らなかった。

ケアの質の面では、虐待を含む、接遇の向上に付いては虐待の芽チェックリストを含む、事業所内勉強会や内部研修で、スタッフの意識向上に努めた。その結果、利用者、ご家族からのクレームは全く無かった。

医療職と介護職の協働について具体的な取り組みとしては、ケース会議において、意見交換を行なった。またアセスメントをそれぞれの立場からの視点で行なった。ケース会議、日頃のカンファレンス、アンケート等により利用者ニーズを確認。特に認知症対応型についてはケース会議以外にも毎月定期的にカンファレンスを行い、利用者ニーズに応えるようセンター方式を用いてニーズを抽出。スピード感をもって利用者にサービス提供を行なった。

今後の課題として、現在新規利用者はコンスタントかつ、過去経験が無いほどの人数を獲得しているにもかかわらず、それにも増して利用取下げが多い現象が1年以上続いている。要因としては周囲の入居施設の充実と入院が上昇していること。

その根本原因としては利用者の高齢化（平均年齢80台後半から90台の利用が増加）していることで、通所サービスを続けられないリスクが高くなっていることが挙げられる。その点に付いてはさらに潜在利用者を掘り起こし、登録人数増を図る以外に無い。日毎の利用人数振り分けに苦慮するリスクはあるが、さらに利用登録者を獲得するよう、丁寧なサービスと緻密な情報開によって居宅介護士苑事業所と信頼を深めていく努力を日々積み重ねていくことが何より必要。また、サービス内容の向上に付いては在宅サービス委員会の満足度調査にクレーム内容が全く無かったことから、さらに、接遇の向上を研修の積み重ねによって向上させる。

	R1 介護・予防・ 総合事業	H30 介護・予防・ 総合事業	R1 認知症 対応型	H30 認知症 対応型
利用定員	45	45	12	12
利用者数（延べ）	8,570 名	9,435 名	1,335 名	1,535 名
1 日平均利用者数	27.3 名	30.0 名	4.2 名	4.9 名
稼働率	60.6%	65.6%	35.4%	40.9%
稼働日数	314 日	313 日	314 日	313 日
平均介護度	1.7	1.8	3.2	3.7
単価（1 人 1 日当り）	9,181 円	11,508 円	13,740 円	14,140 円
総収入	78,687 千円	108,581 千円	18,343 千円	21,706 千円
職員数（常勤換算）	13.6	14.9	5.0	5.0

4. ヘルパーステーション マザアス多摩川苑

選ばれる事業所になることを目標に、月平均 440 時間以上を目指し、年度途中で管理者が交替し、サービス提供責任者 2 名も新たなメンバーとなったが、新しい体制で改善に向けて取り組んだ。

昨年度下半期から稼働時間が低下していることに対しては、引き続き居宅介護支援事業所を定期的に訪問することにより、事業所の認知度向上と、顔が見える関係の構築に努めた。加えて、定期的にヘルパーの空き時間を F A X による情報提供を行なった。しかし、登録ヘルパーの稼働可能時間が限られていることに加え、疾病やけが等により、ヘルパーの長期休業等も重なり、困難を極めた。当該状況に対しては、登録ヘルパーに対して、再度稼働可能日時を聴取することにより、空き時間を抽出し、上述の F A X による情報提供にもつなげた。また、日野市が行う総合事業における生活援助型サービス従事者研修受講者を積極的に雇用することにより、総合事業への提供時間数増加、当該受講者を、法人が開催する初任者研修の受講を進め、登録ヘルパーとしてスキルアップしてもらう等により対応した。登録ヘルパーの長期休業分等はサービス提供責任者が訪問すること等により、なんとか穴埋めしてきたこともあり、年度後半は登録数が改善してきており、昨年度同月対比でも大きく改善しているため、次年度への期待を持っている。

介護給付			予防・総合事業		総収入 (千円)
平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	
29.5	271.9	3,263	25.6	308	18,836

4. 居宅介護支援事業所 多摩川苑

他県からの依頼も含め、市内の地域包括から、年間 81 件の新規相談を受け付けた。昨年度の 47 件と比較すると大幅に増加。特定事業所に移行したことも大きな実績を上げることができた要因かもしれない。しかし医療ニーズの高いケース、サービスにつながらないケースなどケアマネに負担がかかる事例が多かった。入院や入所等も多く、実績につながらないケースもある。またケアマネの資質を問われることがあり、いかに人材教育が難しいかを感じたのも今後の課題とすべきことだと感じる。ケアマネが社会資源になれるように人間力を向上させる必要がある。

年間請求件数		平均単価 (円)		訪問調査 年間件数	訪問調査単価 (円)	総収入 (千円)
介護	予防	介護	予防			
1,548	391	12,872	4,276	89	4,400	26,822

5. 日野市地域包括支援センター 多摩川苑

2017年度から取り組んでいる「見守り隊」は、地域での周知が広がりつつあり登録者が増えている。認知症サポーター養成講座を受講した方の有効活用という面でも成果を上げている。しかし、全登録者数は62名であり、地域の見守り機能アップのためには、今後もネットワークを広げる必要がある。公募型の講座受講者から、マザアスのボランティアに繋がった方もいた。多世代交流という視点では、「たまカフェ」を実践女子大学生による「多世代交流かるた」、公民館の協力による缶バッジ作りといった参加型のカフェにすることで、懸案事項であった「若年層の取り込み」において効果を上げることができた。多分野が集う参加型の仕立ては有効であると実証できたので、今後も同様の展開を継続する。地域課題解決型地域ケア会議は前年度から災害対策をテーマに継続実施しており、台風19号の避難の際に役立ったとの住民の声を頂いた。

2020年度は住民主体で災害弱者を守るという視点で会議を重ねる予定としている。喫緊の課題としては、地震や毎年おこる台風や豪雨に伴う「新型コロナウイルス流行下における災害対策」だと考え、包括支援センターとして高齢者のみならず、地域の方全体を対象にしたコロナウィルス感染予防と効果的災害対策について、有効な情報提供を行い必要な連携をしていく。また、閉じこもりによりフレイル状態の方が増えたり、介護申請も増える事が予想されるため、介護予防対策は更に重要になる。介護予防につながる「自立支援型地域ケア会議」については、地域の通いの場創出や自立支援型ケアマネジメントの推進を見据え、2020年度は東京都のモデル事業として展開する。「地域力」をつけ、住民が主体的に非常時を乗り越えることができるよう、包括として情報発信や効果的な対策等できることを行っていく。

受託収入（千円）	指定介護 予防プラン（件）	総合事業（件）	委託件数（件） 総合事業含む
27,800	1,360	1,012	835

【受託収入】

業務委託	： 27,800,000 円
インセンティブ	： 2,326,000 円
認定調査	： 270,080 円
住宅改修	： 4,000 円

【プラン料】

予防給付	： 4,640,926 円
総合事業	： 3,252,793 円

6. グループホーム たまだいら

「地域イベント等への参加による地域住民との繋がり強化」については、本年度は“市内一斉清掃”と“かわせみ祭り”に参加。市内一斉清掃は初めて参加だったが、周辺道路で清掃は行われていなかったのので、事業所前の道路を清掃。利用者・職員のみではなく、運営推進会議でもご家族へ案内していたので、ご家族の参加もあった。

地域活動の一環としても、来年度も市内一斉清掃を続けていきたいと思う。

かわせみ祭りは、利用者の体調不良もあり、利用者1名の参加だったが、楽しまれた様子だった。かわせみ祭りに限らず、会場となったかわせみハウスは、地域の方が様々な活動をされており、地域の情報や地域で活動されている住民の方との出会いのきっかけになる可能性もある。来年度は、かわせみハウスをきっかけとした、地域参加を検討していきたい。

「地域住民にグループホームへの理解を深めていただく活動」については、“消防訓練”と“焼き芋大会”を企画。消防訓練は、市内の広報にも載せたが、地域住民の参加はなかった。行事計画者とともに検証したが、「消防訓練については、各自治会でも行われており、そちらへの参加されることが多いのでは」との結論に至る。

焼き芋大会については、例年より早い段階で開催のお知らせを行ったところ、利用者・ご家族・ボランティアの参加と合わせ、継続して参加されている住民の方だけでなく、新たな参加される住民の方もいた。

焼き芋大会は、数年に亘って行われている行事であり、年々認知度が上がっていると思われる。来年度についても、継続していきたい。

グループホームたまだいら	R1	H30
利用定員	9名	9名
利用者数（延べ）	3,294名	3,245名
1日平均利用者数	9.0名	8.8名
稼働率	95.1%	98.8%
稼働日数	365日	365日
平均介護度	2.7	2.6
単価（1人1日当り）	14,616円	15,030円
総収入	48,148千円	48,775千円
職員数（常勤換算）	5.6	6.6

7. 小規模多機能ホーム みなみだいら

今年度は管理者の交代、職員の入れ替わりが多かった年であったが、事業所内では、係担当を職員に割り振り、係の仕事内容を充実、拡大、向上していけるよう定期的に担当者会議を開催することとした。サービスの質、職員同士の連携、目標に向かう姿勢、ポジティブな思考等、全てにおいて質を向上することを狙いとしている。

昨年度から少しずつではあるが、イベント等で地域との関わりを持つようにはなってきたが、未だ関わり方としては薄いのが現状である。事業所の位置づけをどう展開していけるかを課題としている。ただ今年度から運営推進会議などにおいて、交番の警察署員にも参加して頂くことが可能となったことで、地域との連携において強化できる部分が見えてきたことは一つの成果であった。また、運営推進会議では、ご家族の参加率は高く、それだけ関心が高いことが伺える。来年度も自治会や地区社協の活動に参加し、保育園との交流等、取り掛かれることから始めることとしている。事業所内で完結しないサービスのあり方を追及していく。

小規模多機能ホームみなみだいら	R1	H30
登録定員	29名	29名
通所利用者数（延べ）	4,762名	4,166名
通所利用者数（1日平均）	13.0名	11.4名
宿泊利用者数（延べ）	927名	1,705名
宿泊利用者数（1日平均）	2.5名	4.7名
訪問利用者数（延べ）	7,331名	7,410名
訪問利用者数（1日平均）	20.0名	20.3名
登録者平均介護度	2.7	2.9
平均単価（1人1日当り）	6,338円	6,217円
総収入	82,533千円	82,575千円
職員数（常勤換算）	13.0	14.9

8. 小規模多機能ホーム さかえまち

今年度は事業所の存在を知っていただく為に、地域との交流に重点をおいて取り組んだ。

月1回の歌の会は、地域の方が参加出来るよう日野の広報誌に案内を載せ、チラシをポスティング、近隣の掲示板にチラシを掲示して宣伝した。

近隣の小学校や保育園とも交流の機会を持つ事が出来た。小学4年生の児童が自らの意思で放課後に立ち寄り、保育園の先生が園児の散歩を兼ねて来苑されることもあった。地域の方と利用者間で良い交流が出来始めたが、相互理解までには至らなかった。イベント等を通じて相互理解を図る取り組みが今後は必要と考える。

登録者25名を目指す、1年を通して達成する事が出来なかった。介護度の重度化などで終了する人も多い傾向にあった。新規契約を増やす為に、ブログやお便り等を活用し、各事業所に空き情報を積極的に発信していく事で少しずつ効果が見え始めた。

災害時の対策については未だマニュアルを検討整備中である。小規模多機能であるがゆえに判断が難しい場面も多い。台風等の自然災害に対応できるようマニュアルの整備を次年度も引き続き有効な形にしていく。

小規模多機能ホームさかえまち	R1	H30
登録定員	29名	29名
通所利用者数(延べ)	4,340名	4,236名
通所利用者数(1日平均)	11.9名	11.6名
宿泊利用者数(延べ)	931名	1,105名
宿泊利用者数(1日平均)	2.6名	3.0名
訪問利用者数(延べ)	4,139名	3,376名
訪問利用者数(1日平均)	11.3名	9.2名
登録者平均介護度	2.8	2.5
平均単価(1人1日当り)	8,404円	8,155円
総収入	79,089千円	71,090千円
職員数(常勤換算)	13.7	13.5

9. 東京都多摩若年性認知症総合支援センター

支援ケースの蓄積に伴い、受け入れ先は増加している。さらに、若年性認知症当事者を複数人受け入れる事業所も増えてきている。相談支援を通じて引き続き受け入れ先を増やす取り組みは続けていく。一方で、自治体毎の相談件数の差が人口に比例していない状況は大きな改善につながっていない。相談件数が未だに0件の自治体があるほか、件数が多くても人口比で捉えると割合が低い自治体があることが分かった。

このような自治体では、地元関係機関と当センターが連携する機会が少なく、当センターの役割や支援内容が関係機関に知られていない可能性がある。また、人口の多い自治体は面積も大きい傾向にあり、当事者が移動面の都合で認知症疾患医療センター以外の医療機関に受診していることも推測される。

以上より、人口の多い自治体や相談件数の少ない自治体の市民や関係機関のほか、認知症疾患医療センター以外の医療機関等へ当センターの周知活動が必要であると考えている。

総収入	職員数	相談者実数	相談件数 (延べ数)
24,783,000 円	4 人	146 件	2,186 件

10. 地域公益活動

大小様々な活動を行っているが、主に上述では触れられていないものの中で、大きな活動について以下に報告する。

(1) 配食サービス

当施設で実施している配食サービスの大きな特徴は、①高齢者福祉総合施設に勤務する栄養調理の専門職が、施設の厨房機能を活かして地域に食事を提供している②それらにより、糖尿病食等の治療食や嚥下に配慮した食形態にも柔軟に対応している③365日配達をしている④コーディネートも含め地域のボランティアが配達を担っている 等が挙げられる。特に、地域のボランティアの力を借りることが出来ていることが、本事業が継続出来ている大きな要素である。また、地域住民であるボランティアが、地域で生活する独居もしくは高齢世帯等の方々を支えている、ということでも価値ある活動であると考えられる。

上記の特徴からも、利用者されている方々から好評を得ており、特に今年度は配達数が増えた。昼食の調理及び配達は限界数に達する日もあり、今後は夕食の配達等についても検討を進める。

H30 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食 数	1,775	1,764	1,675	1,744	1,665	1,636	1,725	1,696	1,703	1,627	1,439	1,758	20,207

R1 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食 数	1,748	1,731	1,623	1,687	1,734	1,753	1,782	1,765	1,831	1,801	1,771	1,952	21,178

(2) あったカフェ（認知症カフェ）

市内にも認知症カフェが増え、それぞれ特色を持った活動を継続している。当施設が開店しているカフェの特徴としては、他団体等のカフェは月1～2回程度の開店であるのに対し、当施設は毎週水曜日の開店としており開店頻度が多いと言う事もさることながら、毎回、専門職である職員がカフェに常駐している事で必要時に対応できる体制を作り上げている事も大きな部分である。そして、一番の強みは、毎回同じメンバーで地域のボランティアの協力が得られている事である。顔なじみの関係から、居場所として通われる方、ボランティアとの会話を楽しみに来店される方も多い。「認知症カフェ」を全面に出していないのは、認知症の症状がある方でも、その介護者の方でも、全く関わりが無い方でも、どなたでも利用できる居場所であるためである。必要があれば、適宜専門職に繋ぐことが出来る。

以下に来店者数を示すが、来店されない方がいる一方で、延べ来店者数はさほど変化していない。これは、新規に来店する方がいる事を示している。当カフェでは、認知症当事者の来店は歓迎するが、介護者の方が認知症当事者を当カフェに「預ける」という対応は受けていない。これはカフェを開店することの目的を達成するための考え方であるが、介護を提供する場ではなく、地域づくりの場である事を示している。今後は、質の高いボランティアの協力を継続的に得られる体制作りや、学生等の若年層の協力が得られる仕組み作りを検討したい。

※新型コロナウイルス感染防止への対応として、2月下旬より、事業を自粛している。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 年度	開店数	4	5	4	4	5	4	5	4	3	4	4	4	50
	来店者数	161	244	161	167	203	196	238	173	133	162	159	174	2,171
	ボラ数 ※1	19	24	20	18	23	20	24	19	14	20	19	20	240
R1 年度	開店数	4	5	4	5	4	4	5	4	3	4	3	0	45
	来店者数	141	219	166	230	161	194	229	158	117	160	132	0	1907
	ボラ数 ※1	18	24	22	25	19	17	24	19	13	17	16	0	214

※1：延べ活動ボランティア総数

Ⅶ 地域密着型複合施設 マザアス新宿

令和元年度総括

地域密着型施設として地域包括ケアシステムの推進を始め地域に貢献すること、施設利用者も住み慣れた地域で本意のある生活の実現を目標に取り組んで来ました。地域の方と協同でイベントを開催したり、職員が地域にボランティアとして出向いたりするなど、前年度同様に、その交流は深まりました。地域の方から声をかけていただくことも多く、大久保、若松町地区との関係性がよりつながりとして大きくなっています。ボランティアの人数も新宿区社協を通じて増加しました。また、東京女子医大看護学部、目白大学介護福祉学部との実習を通じての関わりも深く、目白大学からは新卒の内定も取れました。

もう一つ大きな目標として取り組んで来た職員の定着の改善について大きな課題とされています。施設全体を通じて人材の安定をここ数年組織力の強化を試みてきましたが、今年度は中堅職員の離職と採用コストの増加を招く結果となりました。次年度職員研修や現場職員の自主性を発揮できる職場づくりを実施する他、事業のコスト削減の管理など経営意識の職員の意識改革に取り組む必要性を感じます。

これらのことを踏まえ、30年度の事業計画で掲げた内容については、以下の通り報告をします。

(1)施設全体における新たな人材育成の整備

30年度も研修計画に基づき内部研修に力を入れて来ました。今年度は東京しごと財団団体別採用カスパイラルアップ事業に施設の組織活力の強化のため、参加していましたがシフト業務の中、外部研修に参加できずマネジメント強化に繋がる流れがうまくいかない結果となりました。実践発表会の実施はほぼ計画通りに進めることができた他、プリセプター制度も有効に行い、新人の育成も進めています。更に事業計画の進捗管理も毎月ユニット単位で実施し、職員一人一人が目標を意識できるようにしてきました。各サービス部署の連携もユニット異動やサービス部署の異動も伴い連携して育成定着するよう図りました。

人材確保については改善には至りませんでした。一年を通じて不安定な状況に対して新たに採用を図ったところではありますが十分な結果には至っていません。マザアス新宿に関らず、介護業界全体として人材不足の問題があることも大きな課題であります。多様な人材の確保、また他分野からの人材を育てる仕組みづくりの必要性を感じます。

(2)経営改善

令和元年度は特養、ショートステイ、グループホーム、小規模多機能すべてのサービス

事業が目標稼働率に至らない結果となりました。特養においては平均介護度 4.7 とさらに上がり、看取りによる退所が7人となりました。グループホームも利用者の看取りを行うなど、入退所の対応が求められました。その中で施設利用のニーズに対する職員の意識は高く、稼働の安定した維持に努めてきました。小規模多機能について入退所も多く登録者の入れ替わりで稼働率の向上には結びつきませんでした。区内の地域包括支援センターの職員の入れ替わりも多く、小規模多機能の内容の理解に至っていただけないことも多くありました。来年度はより実際に地域との関係を密にし、戸山ハイツの暮らしの保健室等、地域連携を図り、稼働率向上を実現していきます。より収入の安定を維持すると共に、超過勤務を減らす等、人件費率の安定や経費削減に努めます。

(3)地域貢献

相談員が二人体制になりボランティアコーディネーターとしての役割も強化し、今年も地域との関わりが深まりました。新宿区社会福祉協議会との連携も強く、新規のボランティアも増えた他、これまで施設内のイベントに地域の方が参加下さるようになりました。

高齢化率が50%を超えた戸山ハイツのイベントの支援を行ったりするなど職員の地域交流の意識の高まりにより、地域の方から声をかけていただけるようになって来ました。新宿区社会福祉協議会との連携も深まり、地域の困りごとに対応できるためのネットワークも構築しました。新宿区地域包括ケア推進課とも生活支援体制整備事業の支援に参加し、地域住民の居場所づくりを社協部会とともに構築することを支援してきました。社会福祉法人として地域貢献を使命とし、マザアス新宿が地域をつなぐ社会資源として在るように更に地域包括ケアシステムの構築に寄与できるよう取り組んでいきます。

2. 地域密着型特別養護老人ホーム マザアス新宿／短期入所 マザアス新宿

個別の余暇支援については、暑い時期は中々実施できませんでしたが、外出しやすい秋になると、実施数が増えていきました。ご家族も協力していただき、ご家族と一緒に外出される方もいて、ご家族もとても喜ばれていました。外出だけでなく、料理や子供との交流など施設内での余暇支援を実施できた方もいました。一年間で1回だけでなく2回実施できた方もいて、全員の入居者が実施できました。入居者、ご家族ともに評判が良かったので、来年度も実施していきたいと思います。

24hシートについては、人員不足もあり見直しの時間を作れなかったり、ソフトの使い方がわかりにくく実施できなこともあり、1ユニットのみの定期更新しかできませんでした。再度、ソフト会社に使用方法の研修をお願いし、定期更新できるように取り組んでいきます。

行事食、ユニット調理については、人員不足のため、通常業務のみでいっぱいになり、敬老の日や七夕等決まっている行事以外のイベント食が実施できませんでした。イベント食として一式の提供は難しく、季節のご飯の提供のみになる事が多かったです。また、同理由でユニットでの調理も実施できませんでした。来年度は、1ヶ月に1回管理栄養士・調理師で集まり、情報の共有、イベントの打ち合わせ等話し合いの機会を設け、イベント食、ユニット調理が少しでもできるように取り組んでいきます。

4月にインフルエンザが流行し、ショートステイを止めることになったり、直接的な被害はなかったものの9月の台風被害への対応、年度末には新型コロナウイルスの対応に追われたり、災害、感染症などから事業継続をどう図っていくかを考える一年でした。

ショートステイに関しては、在宅のケアマネジャーはショートステイが空いているか否かの基準で探す方が多かったですが、ご本人のアセスメントとご家族様の意向を確認することで、ケアマネジャーも知らなかった意向が明確になり、スムーズにショート利用をしていただくことができました。ただ、ご家族からの急な利用キャンセルも多く、安定した稼働率の維持にはケアマネとの連携がこれからも求められるところだと考えます。

	R1 特養	H30 特養	R1 ショートステイ	H30 ショートステイ
利用定員	29 名	29 名	3 名	3 名
利用者数（延べ）	10,338 名	10,442 名	943 名	970 名
1 日平均利用者数	28.2 名	28.6 名	2.6 名	2.7 名
稼働率	97.4%	98.7%	85.9%	88.6%
稼働日数	366 日	365 日	366 日	365 日
平均介護度	4.6	4.6	3.5	3.6
単価（1 人 1 日当り）	17,030 円	15,917 円	15,187 円	13,721 円
総収入	175,773 千円	175,041 千円	14,452 千円	14,514 千円
職員数（常勤換算）	19.5 名	18.9 名		

3. グループホーム つつじ

令和元年度は4名の看取りを行いました。前年度同様入居者18名に対し、要介護度5の入居者が6名という重度化対応や看取りが課題となった一年でした。また、新入居者4名の自立度の高い方とのケア内容の大きな差が浮き彫りとなりました。

この課題について行ったこととして

- ① 2ユニットの利点を活かし、職員が両ユニットで仕事できるように柔軟に配置を変化させたこと。
- ② 時間の組み立て方を変更。自立度の高い方々を片ユニットに集まっていたいただき、アクティビティや、一緒に料理を作る等、2ユニットで実践。このことによって各ユニット職員が集まり、見守り人員が増えたことで個別ケア充実となりました（重度化対応にはその日の職員体制で担当を決めることでメリハリが生まれた）

また、前年度からの継続として、あらためて“医療ではなく、ケアで出来ることとはなにか”職員一同考えるための内部研修を行ったり、ユニット会議時に職員の不安軽減のための話し合い、訪問看護師との関係性強化をはかりました。

この結果、暮らしの保健室の秋山氏より、地域の勉強会での発表依頼が来ています。

“口から食べられなくなったらグループホームにおける看取りの実践報告～”

このことはこれまで「グループホームの看取りで出来ることとはなにか」を職員とともに一緒に悩み、考え、実践した成果だと考えます。

加えて、令和元年に行ったこととして、新宿区のグループホーム全11ヶ所を繋げる「新宿区グループホーム連絡会」を有志と立ち上げました。

管理者同士の課題共有だけでなく、職員の学びの機会“職員交流研修”も始まっています。同じ地域内でのグループホーム同士、学びあいながら各グループホームが目指す方向性に良い刺激となること、同じ地域内での人材育成の仕組み作りについて必要性を感じます。

これらを、令和2年度から新しい管理者への交代もあり、うまく引継ぎし、実践に繋いでくれることを期待します。

グループホーム	R1年	H30
利用定員	18名	18名
利用者数（延べ）	6,357名	6,517
1日平均利用者数	17.41名	17.9
稼働率	96.47%	99.2
稼働日数	366日	365日
平均介護度	3.55	3.5
単価（1人1日当り）	15,084.9円	14,378
総収入	93,769円	93,996千円
職員数（常勤換算）	13.9名	14.9名

4. 小規模多機能ホーム さくら

前年度までは地域交流や地域への情報発信に主眼を置いた事業計画を続けて参りましたが、今年度においては一旦視点を事業所内部に戻し、改善テーマを「職員による介護スキルの底上げ」として取り組んで参りました。

当事業所においては、ここ数年内部研修が十分に実施されていなかった為、職員間で基本的な介護スキルに差異が生じているという問題を孕んでおりました。前年度までは人員が常にシフト上で1本不足している状態が毎年継続していた事もあり、計画上では研修毎の担当を決めていてもなかなか計画通りには進まない状態が続いていたのですが、そういった人員的な問題だけではなく、職員の自主性を喚起させる要素にかける事が問題なのではないかと考えました。目指す姿は「やらされる感のある研修」ではなく、職員自身による自発的な内部研修の運営です。このテーマについて、当面3ヵ年計画で取り組む事としました。今年度は職員にできるだけ施設内研修に出席してもらい、その内容をもって内部研修にて講師役を務めてもらうという単純な形で実施致しましたが、もともと施設内研修で研修のテーマや内容は確立されている為、比較的スムーズに実施できたと考えています。ただ結果はこれにとどまらず、施設内研修に参加した職員より、自発的に内部研修開催したい旨の提案もあり、手ごたえを感じました。

令和2年度においては、月毎の研修担当者のみを管理者が決め、研修の内容については担当者で考えてもらう形で実施する予定です。少しずつでも、職員に「学びを広める為に学びを深める」姿勢が備わっていく事を期待します。

小規模多機能ホーム	R1	H30
登録定員	29名	29名
通所利用者数(延べ)	4,227名	4,035名
通所利用者数(1日平均)	11.5名	11.0名
宿泊利用者数(延べ)	1,390名	1,495名
宿泊利用者数(1日平均)	3.8名	4.0名
訪問利用者数(延べ)	3,622名	4,434名
訪問利用者数(1日平均)	9.8名	12.1名
登録者平均介護度	2.2	2.2
平均単価(1人1日当り)	8,603円	7,898円
総収入	72,104千円	72,319千円
職員数(常勤換算)	13.9名	12.2名